Canon

EOS Kiss F

J

使用説明書

Canon EOS Kiss F 使用説明書 J

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS Kiss F は、約1010万画素の撮像素子を備えたデジタル一眼レフカメラです。本機は、動いているものに素早くピントを合わせる高速7点オートフォーカス、写真表現の楽しみを広げるピクチャースタイル、全自動撮影から高度な撮影まで対応する豊富な機能、ライブビュー撮影など、さまざまな特長を備えています。

インテグレイテッド クリーニング システム
また、EOS Integrated Cleaning System（総合的なセンサーダスト対策）に対応しており、撮像素子に付着したゴミを取り除く、セルフ クリーニング センサーユニットも搭載しています。

撮影しながら操作すると理解が深まります

デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（12、13ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

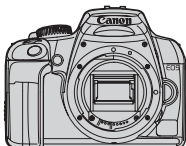
著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

このカメラでは、SDメモリーカードとSDHCメモリーカードをお使いいただけます。本書では、これらをカードと表記します。

※ 画像を記録する**カードは付属していません**。別途ご購入ください。

カメラと主な付属品

　ご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ
（アイカップ、
ボディキャップ付き）

電池
バッテリーパック
LP-E5
（保護カバー付き）

充電器
バッテリーチャージャー
LC-E5

ワイドストラップ
EW-100DB III

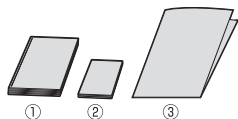
インターフェースケーブル
IFC-200U

ビデオケーブル
VC-100

EOS DIGITAL
Solution Disk
（ソフトウェア）

ソフトウェア
使用説明書

お客様ご相談窓口、
修理受付窓口一覧／
安全上のご注意

①　②　③

① **カメラ使用説明書**（本書）
② **ポケットガイド**
　すぐに撮影したい方は、このガイドをご覧ください。
③ **CD-ROMガイド**
　付属ソフトウェア（EOS DIGITAL Solution Disk）とソフトウェア使用説明書のガイドです。

※ レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
※ レンズキットの種類によっては、レンズの使用説明書が入っていることがあります。
※ 付属品は、なくさないよう注意してください。

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

〈電子ダイヤル〉：電子ダイヤルを示しています。

〈▲▼〉〈◀▶〉：〈十字キー〉十字キーのボタンを示しています。

〈SET〉：設定ボタンを示しています。

⏱4／⏱6／⏱16：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ４秒／６秒／１６秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラに使われている絵文字を使用しています。

MENU：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用：ページタイトル右上の **応用** は、応用撮影ゾーン（p.20）限定で使用できる機能であることを示しています。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

💡：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

?：困ったときの手助けになる事項を記載しています。

⚠：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

📝：補足説明や補足事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- EF-S18-55mm F3.5-5.6 ISレンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

　デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方は、1章、2章までの説明で、このカメラの基本的な操作・撮影方法がわかるようになっています。

目　次

はじめに

6 知っていると便利な機能 107

7 画像の確認方法 123

やりたいこと目次

撮影

画質

ピント合わせ

- ピントを合わせる位置を変更したい ➔ p.61（AFフレーム選択）
- 動いているものを撮影したい ➔ p.50、60（AIサーボAF）

再生

- 写真をカメラで見たい ➔ p.54（再生）
- 写真を素早く探したい ➔ p.124（インデックス表示）
- 大事な写真を誤って消さないようにしたい ➔ p.129（プロテクト）
- 不要な写真を消したい ➔ p.130（消去）
- 写真をテレビで見たい ➔ p.128（ビデオ出力）
- 液晶モニターの明るさを調整したい ➔ p.109（液晶モニターの明るさ）

印刷

- 写真を簡単に印刷したい ➔ p.133（ダイレクトプリント）

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の残像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。

カードについて

- カードは精密にできています。落としたり振動を与えたりしないでください。カードに記録されている画像が壊れる原因となります。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しないでください。カードに記録されている画像データが消えることがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。カードが変形して使用できなくなります。
- カードに液体をこぼさないでください。
- 大切な画像データを守るため、カードは必ずケースなどに入れて保管してください。
- 曲げたり、強い力や衝撃を与えないでください。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しないでください。

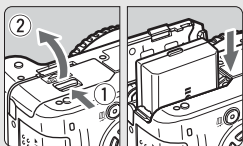
レンズの接点について

　レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

長時間使用時のご注意

　連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがありますので、ご注意ください。

すぐ撮影するには

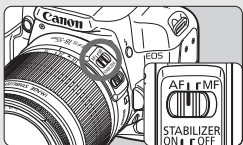
1

電池（バッテリー）を入れる（p.26）

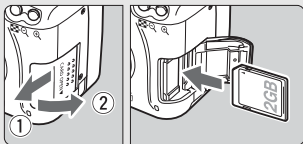
電池の充電方法については24ページを参照してください。

2

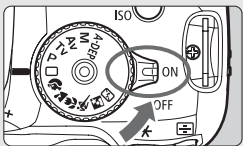
レンズを取り付ける（p.33）

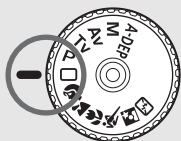
EF-Sレンズは白い指標、EF-Sレンズ以外は赤い指標に合わせて取り付けます。

3

レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.33）

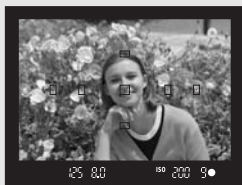
4

スロットカバーを開け、カードを入れる（p.31）

カードの表面を手前にして差し込みます。

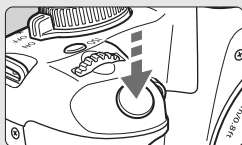
5

電源スイッチを〈ON〉にする（p.27）

- 液晶モニターに日付 / 時刻の設定画面が表示されたときは、29ページを参照してください。

モードダイヤルを〈□〉（全自動）にする（p.44）

撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

7

ピントを合わせる（p.37）

ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

8

撮影する（p.37）

さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

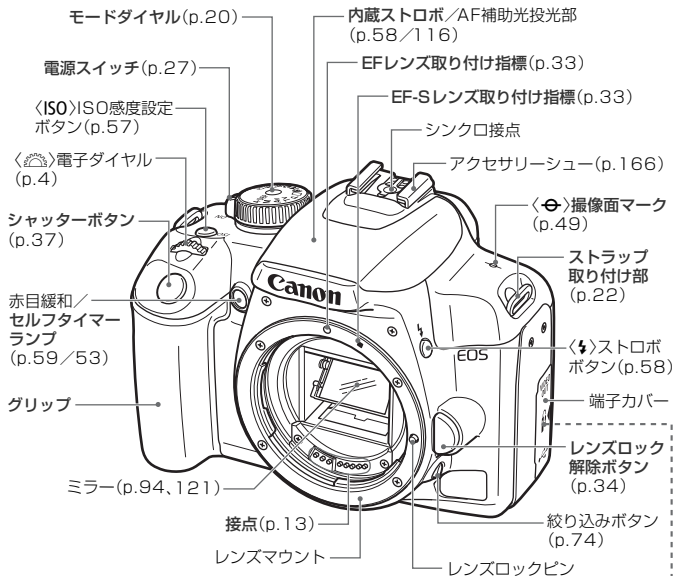
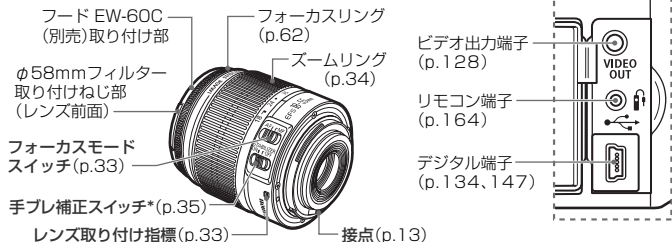
撮影した画像を確認する（p.108）

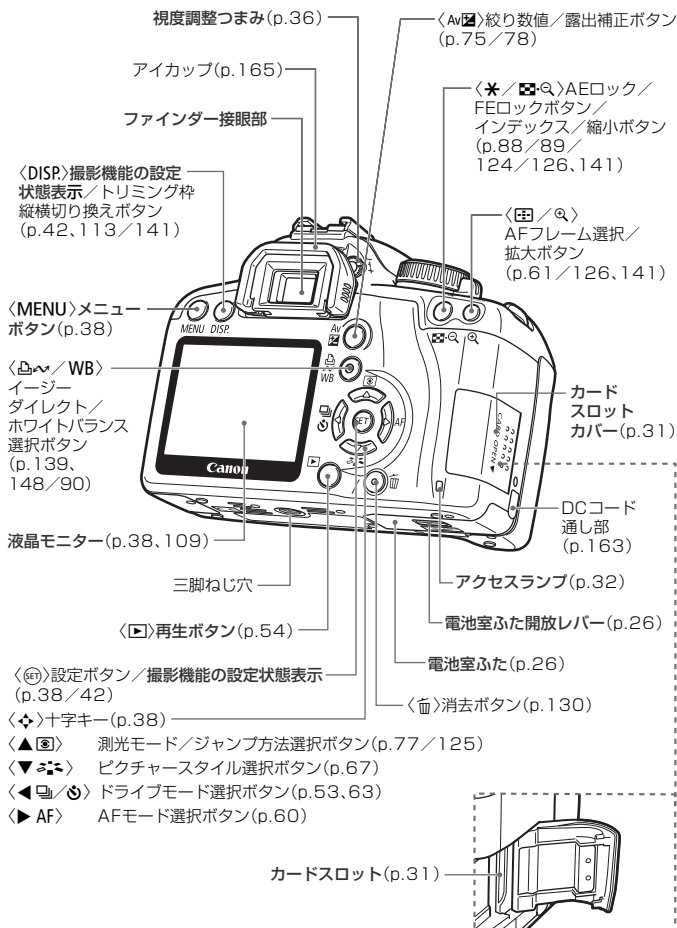
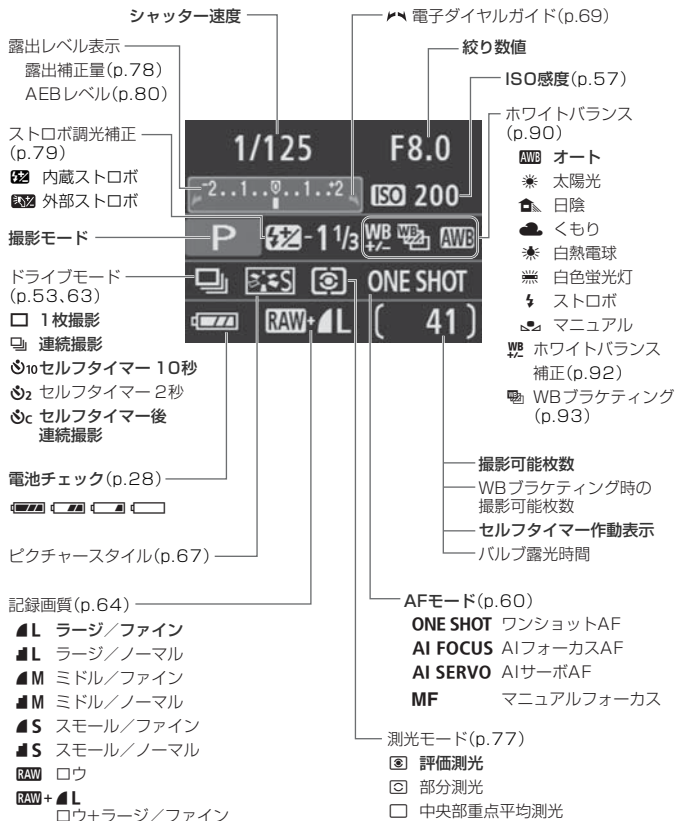
撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。

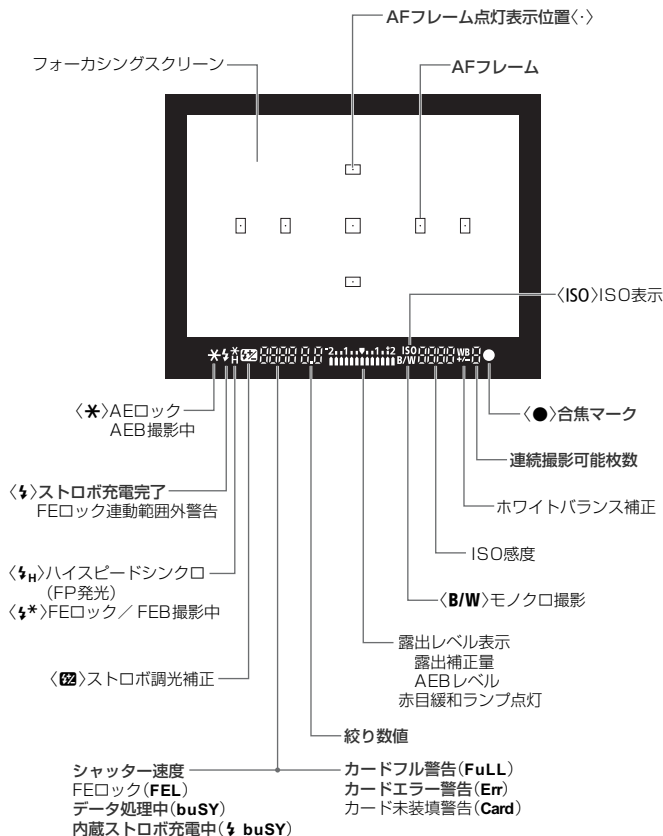
〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます。（p.54）

- 撮影機能の設定状態（液晶モニター）は、シャッターボタンを半押しするか、〈DISP.〉ボタンを押すと消灯します。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.130）を参照してください。

各部の名称

太字は、『かんたん撮影と画像確認』（～p.54）までの説明に使用する各部の名称です。

EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS / II レンズ

* EF-S18-55mm F3.5-5.6 II に手ブレ補正スイッチはありません。

〈▲ ◉〉 測光モード/ジャンプ方法選択ボタン(p.77/125)
〈▼ ⁂〉 ピクチャースタイル選択ボタン(p.67)
〈◀ ⊟/ⓢ〉 ドライブモード選択ボタン(p.53、63)
〈▶ AF〉 AFモード選択ボタン(p.60)

撮影機能の設定状態表示

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

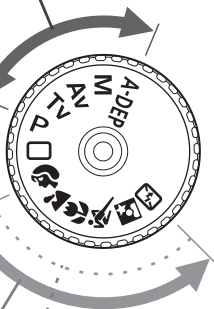
ファインダー内表示

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

モードダイヤルは、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンに分けられています。

応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

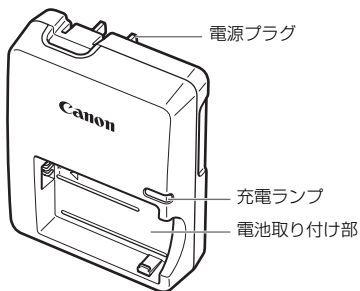
P　：プログラムAE（p.56）
Tv　：シャッター優先AE（p.70）
Av　：絞り優先AE（p.72）
M　：マニュアル露出（p.75）
A-DEP：自動深度優先AE（p.76）

かんたん撮影ゾーン

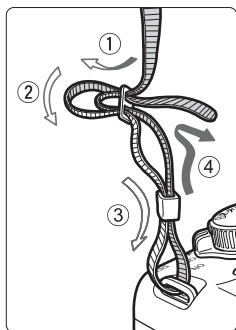
基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体に応じてカメラまかせの全自動撮影ができます。

□：**全自動**（p.44）

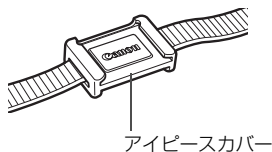
イメージゾーン

：ポートレート（p.47）
：風景（p.48）
：クローズアップ（p.49）
：スポーツ（p.50）
：夜景ポートレート（p.51）
：ストロボ発光禁止（p.52）

バッテリーチャージャー LC-E5

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、有限責任中間法人 JBRC のホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

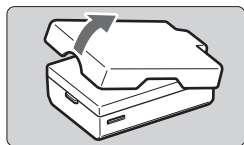
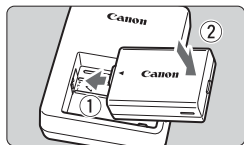
ストラップ（吊りひも）の取り付け方

ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

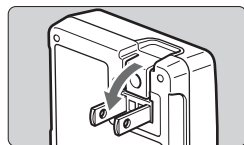
- ストラップにはアイピースカバーが付いています。（p.165）

アイピースカバー

1

撮影前の準備と操作の基本

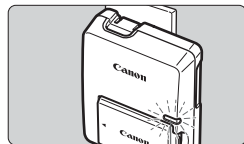
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明します。

電池を充電する

1 保護カバーを外す

2 電池を取り付ける

- 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。

3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。

4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点灯します。
- ➡ 充電が完了すると緑色に点灯します。
- **使い切った電池の充電に要する時間は、約2時間です。**
なお、充電時間は、周囲の温度や電池の残り容量によって異なります。

充電ランプ

電池と充電器の上手な使い方

● **充電は使用する当日か前日にする**

　充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

● **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

● **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**

　電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

● **充電器は海外でも使うことができる**

　充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

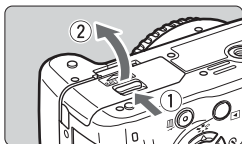
● **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**

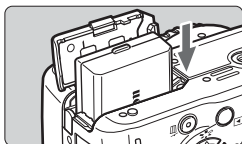
　新しい電池をお買い求めください。

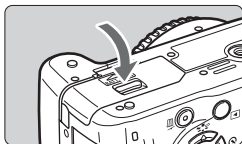
● バッテリーパックLP-E5以外は充電しないでください。
● バッテリーパックLP-E5は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

電池を入れる／取り出す

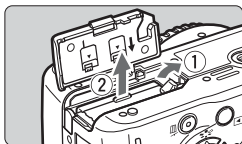
入れ方

充電したバッテリーパックLP-E5をカメラに入れます。

1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。

2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3 ふたを閉める

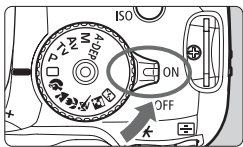
- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

取り出し方

ふたを開けて、電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に保護カバーを取り付けてください。

電池室ふたを外すときは、開いた状態から無理に押し開かないでください。
ヒンジ部分が壊れる恐れがあります。

電源を入れる

電源スイッチを入れたときに、**日付/時刻の設定画面が表示されたときは、29ページを参照して日付/時刻を設定してください。**

〈ON〉：カメラが作動します。

〈OFF〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

撮像素子の自動清掃について

- 電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます。清掃中は、液晶モニターに〈 〉が表示されます。なお、清掃中でもシャッターボタンを半押し（p.37）すると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがありますが故障ではありません。

オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、約30秒間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを押すと、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、メニュー［**オートパワーオフ**］で変更することができます。（p.109）

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、［**書き込み中**］が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたときに、4段階で表示されます。

- ：電池の容量は十分です。
- ：少し減っていますが、まだ使用できます。
- ：まもなく電池切れになります。
- ：電池を充電してください。

撮影可能枚数の目安

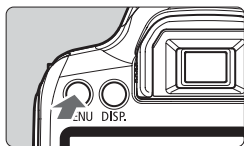
［約・枚］

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+23℃）	600	500
低温（0℃）	500	400

● 撮影可能枚数は、フル充電のLP-E5使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

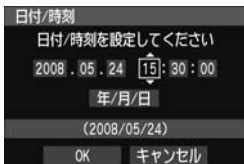
● 実際の撮影条件との違いにより、撮影可能枚数が表記数値よりも少なくなることがあります。
● シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AF（オートフォーカス）のみ行って撮影しない操作を頻繁に行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
● 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
● レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズの種類によっては、撮影可能枚数が少なくなります。
● レンズの手ブレ補正機能を使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
● ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、100ページを参照してください。

MENU 日付／時刻を設定する

初めて電源を入れたときや、日付/時刻の設定が解除されているときは、電源を入れると日付/時刻の設定画面が表示されますので、手順3、4の操作で設定してください。なお、**撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。**

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 ［ꟾ］タブの［日付/時刻］を選ぶ

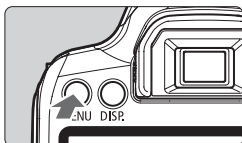
- 十字キーの〈◀▶〉を押して［ꟾ］タブを選びます。
- 十字キーの〈▲▼〉を押して［**日付/時刻**］を選び、〈SET〉を押します。

3 日付/時刻を設定する

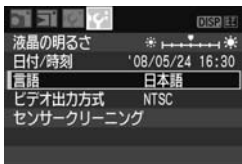
- 十字キーの〈◀▶〉を押して項目を選びます。
- 〈SET〉を押して、〈⬍〉の状態にします。
- 十字キーの〈▲▼〉を押して設定し、〈SET〉を押します。（□ の状態に戻ります）

4 設定を終了する

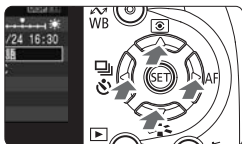
- 十字キーの〈◀▶〉を押して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 日付/時刻が設定されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影機能の設定状態表示に戻ります。

- 設定した日付/時刻のカウントは、手順4で〈SET〉を押したときに始まります。
- カメラから電池を取り出して保管したり、カメラの電池残量がなくなったときは、日付/時刻の設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。

MENU 表示言語を選ぶ

1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 [ƴ] タブの [言語] を選ぶ

● 十字キーの〈◀▶〉を押して [ƴ] タブを選びます。
● 十字キーの〈▲▼〉を押して、上から3番目の項目（言語）を選び、〈SET〉を押します。

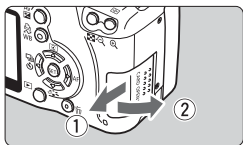
言語		
English	Italiano	Čeština
Deutsch	Norsk	Magyar
Français	Svenska	简体中文
Nederlands	Español	繁體中文
Dansk	Ελληνικά	한국어
Português	Русский	日本語
Suomi	Polski	

3 言語を設定する

● 〈✥〉十字キーを押して言語を選び、〈SET〉を押します。
➡ メニューの表示言語が切り換わります。
● 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影機能の設定状態表示に戻ります。

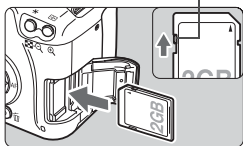
カードを入れる／取り出す

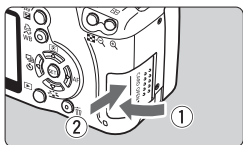
撮影した画像は、カード（別売）に記録されます。

カードのライトプロテクトスイッチが上側(書き込み／消去可能位置)にセットされていることを確認してください。

入れ方

1 カバーを開ける

- カバーを矢印の方向にスライドさせてから開きます。

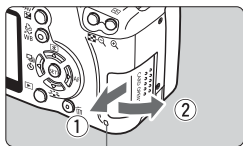
ライトプロテクトスイッチ

2 カードを入れる

- **図のようにカードの表面を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。**

3 カバーを閉める

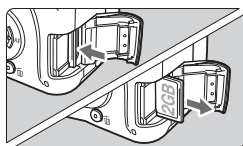
- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。
- 電源スイッチを〈ON〉にすると、液晶モニターに撮影可能枚数が表示されます。

撮影可能枚数

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- メニュー［カードなしレリーズ］を［しない］に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます。（p.108）

取り出し方

アクセスランプ

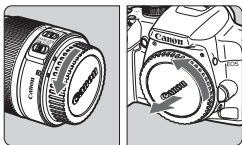
1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- 液晶モニターに「書き込み中」が表示されていないことを確認します。
- **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**

2 カードを取り出す

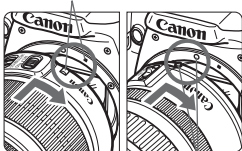
- カードを軽く押し込んで離すと、出てきます。
- カードをまっすぐ取り出して、カバーを閉じます。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。また場合により、カードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因となります。**
  ・カードスロットカバーを開ける
  ・電池室ふたを開ける
  ・カメラ本体に振動や衝撃を与える
- 画像が記録されているカードを使用すると、画像番号 0001 から撮影されないことがあります。（p.110）
- カードの接点は、指や金属が触れないように注意してください。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カードを初期化（p.40）してください。正常な状態に戻ることがあります。

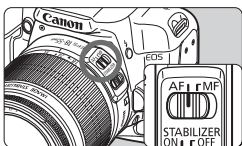
レンズを取り付ける／取り外す

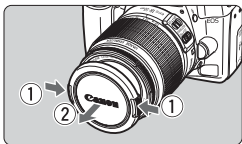
取り付け方

1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

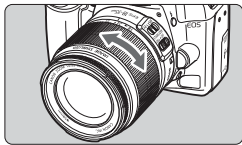
EF-Sレンズ取り付け指標

EFレンズ取り付け指標

2 レンズを取り付ける

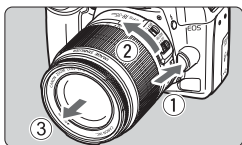
- EF-S レンズとカメラの白い EF-S レンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。
- EF-Sレンズ以外を取り付けるときは、赤いEFレンズ取り付け指標に合わせます。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉（自動ピント合わせ）にする

- 〈MF〉（手動ピント合わせ）になっていると自動ピント合わせができません。

4 レンズキャップを外す

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因となります。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

ズーム操作について

ズーム操作は、レンズのズームリングを手で回します。

ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。

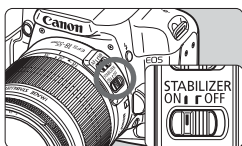
ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください
- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う。
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける。
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける。

撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。

レンズの手ブレ補正機能について

EF-S18-55mm F3.5-5.6 ISレンズを例にして、手ブレ補正機能の説明をします。

＊ ISは、Image Stabilizer（イメージスタビライザー）の略で、手ブレ補正機能のことです。
＊ EF-S18-55mm F3.5-5.6 II に手ブレ補正機能は搭載されていません。

1 手ブレ補正スイッチを〈ON〉にする

● カメラの電源スイッチも〈ON〉にしておきます。

2 シャッターボタンを半押しする

➡ 手ブレ補正機能が働きます。

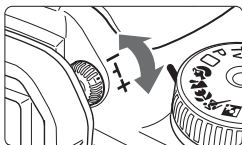
3 撮影する

● ファインダー像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。

● 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
● 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。

● 手ブレ補正機能は、レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉〈**MF**〉どちらのときでも働きます。
● 三脚使用時は、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすると、電池の消耗を防ぐことができます。
● 一脚使用時にも、手ブレ補正効果が得られます。
● 手ブレ補正機能付きレンズの中には、撮影状況に応じて手ブレ補正機能のモードを任意に切り換えることができるレンズがありますが、EF-S18-55mm F3.5-5.6 ISでは、モード切り換えは自動的に行われます。

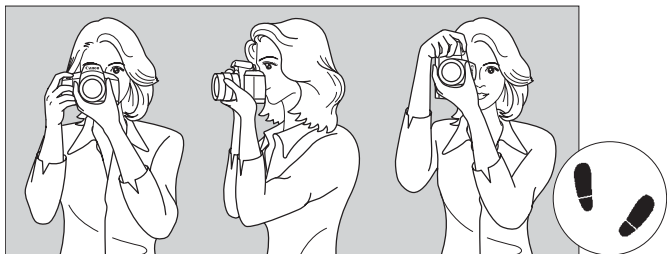
撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する

視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレーム（7つの四角い枠）が最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。

視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズE（10種）の使用をおすすめします。

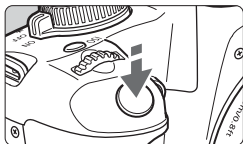
カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

横位置　　縦位置

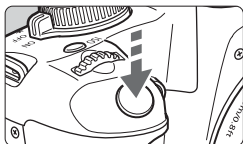
①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
⑥片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

液晶モニターを見ながら撮影するときは、95ページを参照してください。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階のスイッチになっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内に表示されます。（⏱4）

全押し

シャッターが切れて撮影されます。

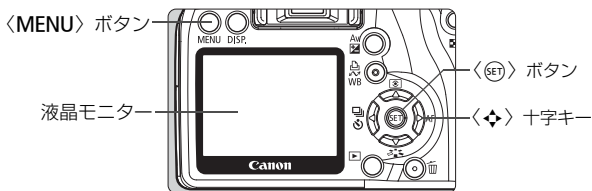
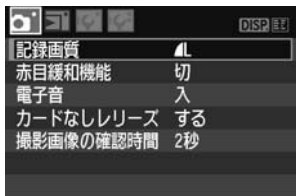
手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

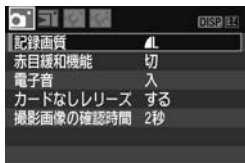
・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

● シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
● メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

メニュー機能の操作と設定

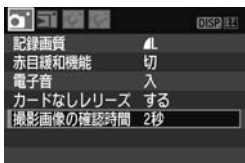
　このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。メニュー機能の基本操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈✥〉十字キー、〈SET〉ボタンを使って行います。

かんたん撮影ゾーンのメニュー画面

* ［撮影/機能設定/マイメニュー］タブは、全自動モードなどのかんたん撮影ゾーンでは表示されません。
  また、かんたん撮影ゾーンでは、表示されないメニュー項目があります。

応用撮影ゾーンのメニュー画面

メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

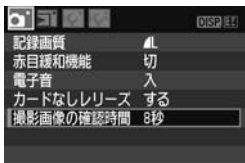
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

- 〈◀▶〉を押してタブ(系統)を選びます。
- 〈〉を回して選ぶこともできます。

3 項目を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を選ぶ

- 〈▲▼〉または〈◀▶〉で内容を選びます。(〈▲▼〉で選ぶ内容と、〈◀▶〉で選ぶ内容があります)
- 項目によっては、現在設定されている内容が青色で表示されます。

5 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。

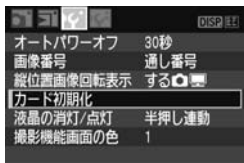
6 設定を終了する

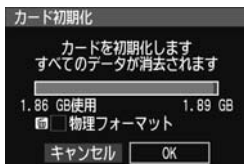
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影機能の設定状態表示に戻ります。

- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- メニュー機能の一覧を168ページに記載しています。

MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1 ［カード初期化］を選ぶ

● ［ϒ］タブの［**カード初期化**］を選び、〈SET〉を押します。

2 初期化する

● ［OK］を選び〈SET〉を押します。

➡ カードが初期化されます。

➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。

● 物理フォーマットを行うときは、〈🗑〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に〈✓〉が付いた状態で［OK］を選びます。

物理フォーマットについて

- 物理フォーマットは、カードへの記録／読み出し速度が遅くなったと感じたときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりもやや時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイル管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

初期化の画面で表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

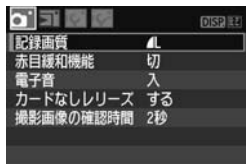
液晶モニターの表示切り換え

液晶モニターには、撮影機能の設定状態や、メニュー機能、撮影した画像などを表示させることができます。

撮影機能の設定状態

- 電源スイッチを入れると、撮影機能の設定状態が表示されます。
- **シャッターボタンを半押し**（p.37）**すると表示が消え、指を離すと表示されます。**

- **〈DISP.〉ボタン、または〈SET〉を押して表示を消すこともできます。**もう一度押すと表示されます。

メニュー機能

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、元の表示に戻ります。

撮影した画像

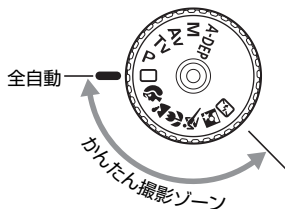
- 〈▶〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、元の表示に戻ります。

- メニュー［**液晶の消灯/点灯**］で、撮影機能の設定状態の表示が、消えたり点いたりしないようにすることができます。（p.115）
- メニュー機能や撮影した画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、すぐに撮影することができます。

2

かんたん撮影と画像確認

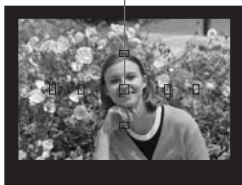
この章では、モードダイヤルのかんたん撮影ゾーンを使って上手に撮影する方法と、撮影した画像の確認方法を説明しています。

かんたん撮影ゾーンでは、シャッターボタンを押すだけでカメラまかせの撮影ができるよう、各種機能が自動設定されます。また、誤操作による失敗を未然に防ぐため、撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。なお、設定変更できない撮影機能（自動設定機能）は、灰色で表示されます。

オートライティングオプティマイザについて

かんたん撮影ゾーンでは、撮影結果に応じて、画像を好ましい明るさ、コントラストに自動補正するオートライティングオプティマイザが働きます。応用撮影ゾーンでも初期設定されています。（p.156）

□ 全自動で撮る

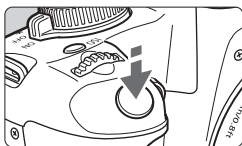
1 モードダイヤルを〈□〉にする

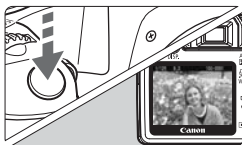
AFフレーム

2 被写体（写したいもの）にAFフレームを合わせる

- すべてのAFフレームで被写体をとらえ、基本的に一番近くにあるものにピントを合わせます。
- 中央のAFフレームを被写体に重ね合わせるとピントが合いやすくなります。

合焦マーク

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレーム内の点が一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。
- 内蔵ストロボが上がっているときは、手で押し下げて収納します。

? こんなときは

● **合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない**

明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.162）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

● **複数のAFフレームが同時に光る**

赤く光ったすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも光っているときは、そのまま撮影してください。

● **電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）**

動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。電子音が鳴っている状態でシャッターボタンを全押しすると、動いている被写体にピントの合った写真を撮ることができます。

● **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない**

レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっていると、ピント合わせが行われません。〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● **明るい日中なのにストロボ撮影になった**

逆光状態の撮影では、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。

● **暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った**

AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF補助光といわれる機能で、有効距離は約4mです。

● **ストロボが発光したのに暗い写真になった**

写したいものから離れすぎています。5m以内を目安に撮影してください。

● **ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった**

写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。1m以上離れて撮影してください。また、レンズ先端にフードが付いているときは、外して撮影してください。

□ 全自動を使いこなす

構図を変えて撮影する

シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

〈□〉（全自動）では、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影ゾーンの他のモードでもフォーカスロック撮影ができます（〈⛷〉スポーツを除く）。

動いているものを撮影する

〈□〉（全自動）では、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます。被写体がAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈〉（ポートレート）を使用します。〈□〉（全自動）よりも肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。

撮影のポイント

● **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**

人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

● **望遠レンズを使用する**

ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

● **顔にピントを合わせる**

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが光ったことを確認して撮影します。

- シャッターボタンを押し続けると、連続撮影（1秒間に最高約3枚）して表情やポーズの変化を写すことができます。
- 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に発光します。

〈風景アイコン〉風景を写す

　広がりのある風景や夜景など､近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈風景アイコン〉（風景）を使用します。〈□〉（全自動）よりも空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。

撮影のポイント

● **ズームレンズは広角側にする**

　ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

● **夜景を撮影するときは**

　〈風景アイコン〉はストロボが発光しませんので、夜景を写すこともできます。手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影します。なお、人物と夜景の両方をきれいに写したいときは、モードダイヤルを〈夜景ポートレートアイコン〉（夜景ポートレート）に設定し、カメラを三脚に固定して撮影します。（p.51）

🌷 花や小物を大きく写す

　花や趣味の小物などの写真を大きく写したいときは、〈🌷〉（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。

撮影のポイント

● **すっきりした背景を選ぶ**

　背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。

● **写したいものに、できるだけ近づく**

　最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈🌷**0.25m/0.8ft**〉というように書かれているものもあります。なお、最短撮影距離は、カメラの左肩に刻印されている〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎると合焦マーク〈●〉が点滅します。

　暗い場所ではストロボが発光します。近づきすぎて画面の下側が不自然に暗くなる場合は、少し離れて撮りなおしてください。

● **ズームレンズは望遠側にする**

　ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

動きのあるものを写す

子どもの走っている姿や乗り物など、動いているものにピントの合った写真を撮りたいときは、〈〉(スポーツ)を使用します。

撮影のポイント

● **望遠レンズを使用する**
　遠くからでも撮影できるよう、できるだけ望遠レンズを使用します。

● **中央のAFフレームでピントを合わせる**
　ファインダー中央のAFフレームを写したいものに合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。
　シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影(1秒間に最高約3枚)して動きの変化を写すことができます。

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー左下の数値(シャッター速度)が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。

夜景と人物を明るく写す

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、〈〉（夜景ポートレート）を使用します。

撮影のポイント

● **広角レンズと三脚を使用する**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影します。

● **人物との距離は5m以内にする**

暗い場所ではストロボが自動発光して人物をきれいに写します。人物との距離を5m以内にすると、ストロボ光が届きます。

● **〈□〉（全自動）でも撮影しておく**

ブレた写真になりやすいので、〈□〉（全自動）でも撮影しておくことをおすすめします。

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写真を撮られる人に声をかけてください。
- セルフタイマー併用時は、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

〈⚡〉ストロボが使えない場所で写す

美術館や水族館など、ストロボ撮影が禁止されている場所では、〈⚡〉（ストロボ発光禁止）を使用します。また、キャンドルライトなど、独特の明かりの雰囲気を効果的に写したいときにも使用します。

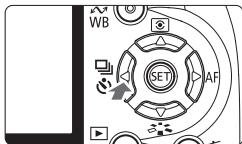
撮影のポイント

● **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

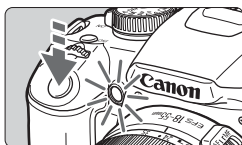
● **人物も写真に入れるときは**

暗い場所では、撮影が終わるまで写される人が動かないようにします。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

セルフタイマー撮影

1 〈◀ ボタンを押す〉

2 セルフタイマーを選ぶ

- 〈◀▶〉を押して選び、〈SET〉を押します。

  10：**10秒後に撮影**
  2：**2秒後に撮影** 応用（p.94）
  C：**10秒後、設定した枚数を連続撮影**
  〈▲▼〉を押して、撮影する枚数(2～10)を設定します。

3 撮影する

- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプと電子音、液晶モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。
- ➡ 撮影2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

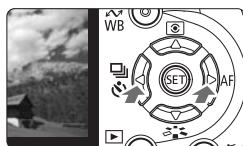
〈C〉では、記録画質やストロボ撮影などの撮影条件によって、連続撮影の間隔が長くなることがあります。

- セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し（p.54）、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバー（p.165）を取り付けてください。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロック（p.46）して撮影します。
- セルフタイマー撮影を中止するときは、〈◀〉ボタンを押します。

▶ 画像を再生する

ここでは、一番手軽に画像を再生する方法を説明します。再生方法に関する詳しい説明は、123ページを参照してください。

1 画像を再生する

● 〈▶〉ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

● 〈◀〉を押すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。
〈▶〉を押すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。

● 〈DISP.〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

1枚表示

1枚表示＋記録画質

ヒストグラム表示

撮影情報表示

3 再生を終了する

● 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影機能の設定状態表示に戻ります。

一歩進んだ思いどおりの撮影

かんたん撮影ゾーンでは、失敗を防ぐため、いろいろな機能の変更ができないようになっていましたが、〈**P**〉（プログラムAE）では、さまざまな機能を組み合わせ、一歩進んだ思いどおりの撮影を行うことができます。

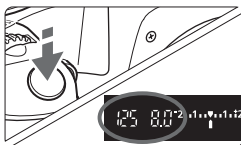
- 〈**P**〉（プログラム AE）では、標準露出になるようシャッター速度と絞り数値が自動的に設定されます。
- かんたん撮影ゾーンと〈**P**〉の撮影機能の組み合わせの違いについては、170ページの一覧表を参照してください。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

＊ **AE**は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

P: プログラムAE撮影

好ましい明るさの写真になるよう、被写体の明るさに応じてカメラが露出（シャッター速度と絞り数値）を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

1 モードダイヤルを〈P〉にする

2 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ 自動設定されたシャッター速度と絞り数値がファインダー内に表示されます。
- シャッターボタンを全押しします。

撮影のポイント

- **任意にISO感度を変える。内蔵ストロボを使う**

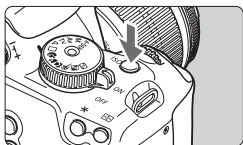
　被写体や周囲の明るさに応じてISO感度（p.57）を変えたり、内蔵ストロボ（p.58）を使います。〈**P**〉では、内蔵ストロボが自動発光しませんので、室内や暗い場所では、〈ϟ〉（ストロボ）ボタンを押して内蔵ストロボを上げます。

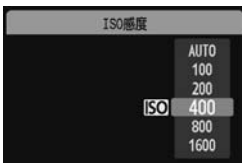
- **プログラムを変えることができる（プログラムシフト）**

　シャッターボタン半押し後、〈ダイヤル〉を回すと、シャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を変えて撮影することができます。プログラムシフトは、1枚撮影すると解除されます。なお、ストロボ撮影時はシフトできません。

極端に暗い場所や明るい場所でシャッターボタンを半押しすると、図のようにシャッター速度と絞り数値の両方が点滅することがあります。暗い場所（**30" 3.5**）では、ISO感度（p.57）を上げるか、ストロボ（p.58）を使用してください。明るい場所（**4000 22**）では、ISO感度を下げてください。

ISO：明るさに応じてISO感度を変える 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影する場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンでは、ISO感度が自動設定されます。

1 〈ISO〉ボタンを押す（⏱6）

➡ ［ISO感度］が表示されます。

2 ISO感度を選ぶ

- 〈⚙〉、または〈▲▼〉でISO感度を選びます。
- ファインダー内のISO感度を見ながら、〈⚙〉で設定することもできます。

ISO感度を選ぶときの目安

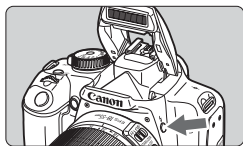
ISO感度	通常撮影（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
100／200	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります。（p.58）
400／800	曇り空、夕方	
1600	夜景、暗い屋内	

ISO感度の「Auto」について

撮影モードと周囲の明るさに応じて、ISO100～800の間でISO感度が自動設定されます。なお、ストロボ撮影時と〈**M**〉（マニュアル露出）時は、ISO400に固定されます。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と液晶モニターに自動設定されたISO感度が表示されます。

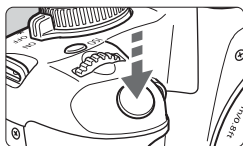
ISO感度を高くしたり、高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長時間露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。

ϟ 内蔵ストロボを使う

室内や暗い場所、日中の逆光状態では、ストロボを上げてシャッターボタンを押すだけで、手軽にきれいな写真を撮ることができます。〈**P**〉では、手ブレしにくいシャッター速度（1/60〜1/200秒）が自動設定されます。

1 〈ϟ〉ボタンを押す

- 応用撮影ゾーンでは〈ϟ〉ボタンを押すと、いつでもストロボ撮影ができます。
- ストロボ充電中は、ファインダー内に「**ϟbuSY**」、液晶モニターに［**BUSYϟ**］が表示されます。

2 シャッターボタンを半押しする

- ファインダーの左下に〈ϟ〉が表示されていることを確認します。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、常にストロボが発光します。

ストロボ撮影できる距離の目安　　［約・m］

ISO感度	EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS / II	
	広角：18mm	望遠：55mm
100	1〜3.7	1〜2.3
200	1〜5.3	1〜3.3
400/Auto	1〜7.4	1〜4.6
800	1〜10.5	1〜6.6
1600	1〜14.9	1〜9.3

撮影のポイント

● **被写体が遠くにあるときは、ISO感度を上げる**
　ISO感度の数値を大きくすると、ストロボ撮影できる距離を延ばすことができます。

● **明るい日中では、ISO感度を下げる**
　ファインダー内の数値が点滅するときは、ISO感度の数値を小さくします。

● **レンズのフードを外し、被写体から1m以上離れる**
　レンズ先端にフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、写真の下側が暗くなることがあります。大切な撮影のときは、画像を再生して写真の下側が不自然に暗くなっていないか確認してください。

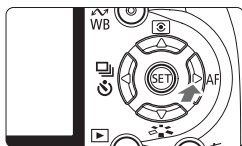
MENU 赤目緩和機能を使う

　ストロボ撮影する前に赤目緩和ランプを点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。
　〈 〉〈 〉〈 〉以外の撮影モードで機能します。

● ［ ］タブの［**赤目緩和機能**］を選び、〈SET〉を押します。［**入**］を選び〈SET〉を押します。
● ストロボが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると赤目緩和ランプが点灯し、全押しすると撮影されます。

● 赤目緩和は、「写される人がランプを注視する」、「室内を明るくする」、「近づいて撮影する」と効果的です。
● シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内の表示が内側に向かって消灯していきます。この表示が消えてから撮影すると効果的です。
● 赤目緩和効果の度合いは、個人差があります。

AF: AFモード（ピント合わせの方法）を変える 応用

記念撮影や、動物の撮影、スポーツ撮影など、被写体や撮影目的にあわせてAFの作動方法を変えることができます。

1 〈▶ AF〉ボタンを押す

➡［AFモード］が表示されます。

2 AFモードを選ぶ

● 〈◀▶〉を押してAFモードを選び、〈SET〉を押します。

3 ピントを合わせる

● AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、設定したモードでピント合わせが行われます。

AFモードを選ぶときの目安

● **ONE SHOT（ワンショットAF）**

止まっている被写体を撮影するときに選びます。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。そのまま構図を変えて撮影することもできます。

● **AI FOCUS（AIフォーカスAF）**

ワンショットAF、AIサーボAFのどちらにするか迷ったときに設定します。被写体の動きに応じて、自動的にワンショットAF、またはAIサーボAFが設定されます。

＊ AIサーボAF状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴ります。なお、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。

＊ AI は、Artificial Intelligence（アーティフィシャル インテリジェンス）の略で、人工知能のことです。

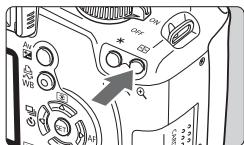
● **AI SERVO（AIサーボAF）**

動いている被写体を撮影するときに選びます。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントと露出を合わせ続けます。

＊ ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

ピント合わせに使うAFフレームを選ぶ 応用

かんたん撮影ゾーンでは、常にすべてのAFフレームを使い、自動選択で基本的に一番近くにあるものにピントを合わせるため、思ったところにピントが合わないことがあります。

〈**P**〉（プログラムAE）だけでなく、〈**Tv**〉、〈**Av**〉、〈**M**〉では、ピント合わせに使うAFフレームを1つ選び、そのAFフレームを合わせたところだけにピントを合わせることができます。

1 〈AF〉ボタンを押す（6）

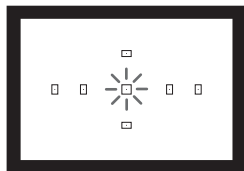
➡ AF フレームの選択状態が液晶モニターとファインダー内に表示されます。

● すべての AF フレームが点灯しているときは、自動選択になります。

2 AFフレームを選ぶ

● 〈✣〉十字キーを押してAFフレームを選びます。

● ファインダーをのぞきながら AF フレームを選ぶときは、〈ダイヤル〉を回して赤く光る点を移動させます。

● 〈SET〉を押すと、中央の AF フレームと自動選択が交互に切り換わります。

3 ピントを合わせる

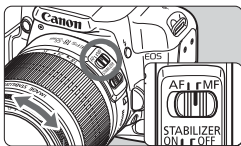
● 選んだ AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。

撮影のポイント

- **人物をアップで撮影するときは、「ワンショット AF」で目にピントを合わせる**
  写される人の目にピントを合わせてから構図を決めると、生きいきとした表情が引き立った写真になります。

- **ピントが合いにくいときは、中央のAFフレームを選ぶ**
  7点の中で、一番ピントが合いやすいAFフレームです。

- **動いているものに楽にピントを合わせ続けたいときは、「自動選択」とAFモードの「AIサーボAF」を組み合わせる**
  初めに中央のAFフレームでピントを合わせます。そのあとは、被写体が中央のAFフレームから外れても、他のAFフレームを使って自動的にピント合わせが行われます。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

フォーカスリング

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

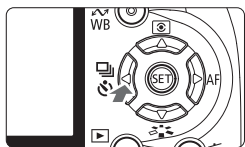
2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

- シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ピントの合ったAFフレームが一瞬光り、合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

連続撮影する 応用

1秒間に最高約3枚の連続撮影を行うことができます。子どもが走ってくる様子や、表情の変化を写し続けたいときに効果的です。

1 〈◀連続撮影・セルフタイマー〉ボタンを押す

2 〈連続撮影〉を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して連続撮影〈連続撮影〉を選び、〈SET〉を押します。
- 連続撮影速度は、記録画質（p.64）の設定によって変わります。
  JPEG　：最高約3コマ/秒
  RAW　：最高約1.5コマ/秒
  RAW+◢L：最高約1.5コマ/秒

3 撮影する

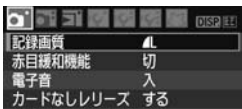
- シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影が行われます。

撮影のポイント

- **被写体の動きに応じてAFモードを組み合わせる**
  - **・動いている被写体**
    「AIサーボAF」と組み合わせると、被写体にピントを合わせ続けながら連続撮影することができます。
  - **・止まっている被写体**
    「ワンショットAF」と組み合わせると、一度合わせたピントの位置を変えずに連続撮影できます。
- **ストロボも併用できる**
  ただし、充電に必要な時間分、連続撮影速度が遅くなります。

- メニュー［カスタム機能（C.Fn）］の［高感度撮影時のノイズ低減］（p.155）を［1：する］に設定すると、連続撮影ができなくなります。
- AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズによって連続撮影速度が若干低下することがあります。

MENU 記録画質を設定する

記録する画素数（約1010／530／250万画素）と、その画質を選ぶことができます。

1 記録画質を選ぶ

- ［📷•］タブの［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡［**記録画質**］が表示されます。

2 記録画質を設定する

- 画面上に表示される「画素数 ***M（百万画素）****×****」と、「撮影可能枚数 [***]」を目安に選び、〈SET〉を押します。
- **かんたん撮影ゾーンでは、RAWとRAW＋◢Lは表示されません。**
- 記録画質は、かんたん撮影ゾーンと応用撮影ゾーンで別々に設定します。

記録画質を選ぶときの目安

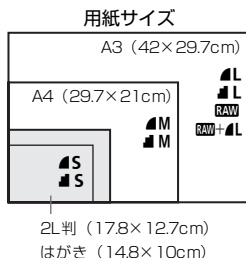
記録画質			記録画素数	ファイルサイズ（約・MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
◢L	高画質	JPEG	約1010万（10M）	3.8	514	514
▟L				2.0	982	982
◢M	中画質		約530万（5.3M）	2.3	859	859
▟M				1.2	1630	1630
◢S	低画質		約250万（2.5M）	1.3	1474	1474
▟S				0.7	2816	2816
RAW		高画質	約1010万（10M）	9.8	199	5
RAW＋◢L				9.8+3.8	143	4

* 当社試験基準の2GBカードを使用して、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダードで測定。

* **ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、被写体やカードの銘柄、ISO感度、カスタム機能などの設定により変動します。**

* **記録画質の設定により、連続撮影速度**（p.63）**が変化します。**

こんなときは

● 印刷する用紙サイズで記録画質を選びたい

図を目安に記録画質を選んでください。なお、撮影後にトリミング（画像の切り抜き）をするときは、記録画素数の多い◢L、▟L、RAW、RAW+◢Lをおすすめします。

● ◢、▟の違いは？

圧縮率による画質の違いを表しています。同じ記録画素数のときは、◢の方がきれいです。▟を選ぶと画質は少し落ちますが、◢よりもカードに多く記録できます。

● 表記されている撮影可能枚数よりも多く撮影できた

撮影条件によっては、表記の枚数よりも多く撮影できることがあります。逆に、撮影できる枚数が少なくなることもありますので、目安としてとらえてください。

● 連続撮影可能枚数（バースト撮影枚数）は、カメラに表示される？

ファインダー内右端の数字が連続撮影可能枚数です。ただし、**0**〜**9**の1桁表示なので、連続撮影できる枚数が、8枚以下になるまで「**9**」表示のままです。なお、この数値はカードが入っていないときにも表示されますので、カードを入れずに撮影しないよう注意してください。

● RAWはどういうときに使うの？

RAWはパソコンで処理が必要な画像です。詳しくは、次ページの『RAWについて』と『RAW+◢Lについて』をお読みください。

なお、RAW以外は、一般的なデジタルカメラで使われているJPEG（ジェイペグ）タイプの画像です。

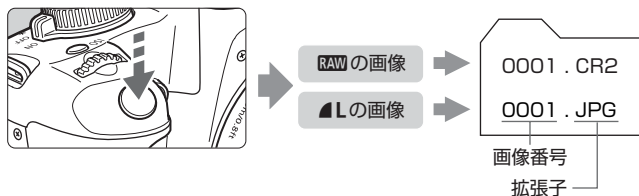
RAWについて

RAWは、◢Lなどの画像を作り出す前の生データです。付属ソフトウェアDigital Photo Professional（デジタルフォトプロフェッショナル）などを使わないとパソコンで見ることができませんが、◢Lなどではできない幅広い画像調整を行うことができます。1枚の作品をじっくり創り上げたいときや、大切な撮影で使うと効果的です。

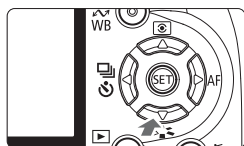
例えば RAW で撮影した画像は、付属のソフトウェアを使い、異なるピクチャースタイルの写真を何枚でも創り出すことができます。また、ホワイトバランスの設定（p.90）を間違えて撮影したときにも、画質を損なうことなく適切なホワイトバランスに変えることができます。

なお、RAW で撮影した画像は、ダイレクトプリントや印刷指定（DPOF）を行うことはできません。

RAW+◢Lについて

RAW+◢Lは、1回の撮影でRAWと◢L、2つの画像がカードに記録されます。画像として完成している◢Lも記録されますので、付属ソフトウェアの入っていないパソコンでも、見たり印刷したりすることができます。なお、RAW+◢L では、同じ画像番号で同じフォルダに保存されますので、画像番号に付いている画像タイプ（拡張子）で判別してください。RAWの画像タイプは「CR2」、◢Lの画像タイプは「JPG」です。

RAWとRAW+◢Lでは、オートライティングオプティマイザ（p.156）は機能しません。

ピクチャースタイルを選ぶ 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

1 〈▼ 〉ボタンを押す

➡［**ピクチャースタイル**］が表示されます。

2 スタイルを選ぶ

● 〈▲▼〉を押してピクチャースタイルを選び、〈SET〉を押します。

3 撮影する

● ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定したピクチャースタイルで撮影されます。

各ピクチャースタイルの画像特性について

S スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

P ポートレート

肌がきれいで、ややくっきりした写真になります。女性や子どもをアップで写すときに効果的です。モードダイヤルが〈 〉のときにも自動設定されます。

83ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

L 風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。モードダイヤルが〈 〉のときにも自動設定されます。

ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の環境光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるよう色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

モノクロ

白黒写真になります。

RAW 以外の記録画質で撮影した画像は、カラー写真に戻すことができません。［**モノクロ**］に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。なお、［**モノクロ**］設定時は、ファインダー内に〈**B/W**〉が表示されます。

ユーザー設定1～3

［**ポートレート**］や［**風景**］などを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.85）。登録されていないときは、スタンダードの初期設定と同じ特性で撮影されます。

4

さらに進んだ思いどおりの撮影

この章では、第3章の応用編として、さらに思いどおりの写真を撮るための方法を紹介します。

- 章の前半では、モードダイヤルの〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**A-DEP**〉を使った撮影方法を紹介しています。〈**A-DEP**〉以外の撮影モードでは、第３章で紹介した機能をすべて組み合わせて使用することができます。
- 章の後半の『測光モードを変える』からは、好ましい明るさの写真になるように調整する方法や、ピクチャースタイルの調整方法などを紹介しています。なお、ここで紹介する機能は、第3章の〈**P**〉（プログラムAE）でもすべて組み合わせて使用することができます。

電子ダイヤルガイドについて

1/500

F16

-2..1..0..1..+2

シャッター速度、絞り数値、露出補正を設定するときに表示される〈 〉は、〈 〉（電子ダイヤル）を回して設定することを示しています。

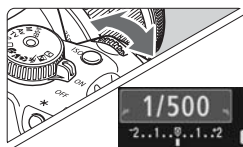
Tv: 被写体の動きを表現する

動きの速い被写体が止まっているような写真や、ブレているような写真、流れているような写真は、モードダイヤルの〈**Tv**〉（シャッター優先AE）を使って撮影します。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

動きを止めた写真
（速いシャッター速度）

流動感のある写真
（遅いシャッター速度）

1 モードダイヤルを〈Tv〉にする

2 シャッター速度を設定する

- 『撮影のポイント』を参考にしてシャッター速度を決めます。
- シャッター速度は、〈⚙〉を右に回すと速くなり、左に回すと遅くなります。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定したシャッター速度で撮影されます。

シャッター速度の数値について

液晶モニターでは、シャッター速度を分数で表示していますが、ファインダー内では、その分母のみ表示しています。なお、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

撮影のポイント

● **動きの速い被写体が、止まっているような写真にするには**

　動きの速さにもよりますが、シャッター速度の数値を1/4000～1/500秒に設定します。

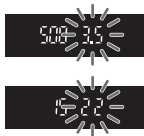
● **子どもや動物が走る様子を、躍動感ある写真にするには**

　シャッター速度の数値を1/250～1/30秒に設定し、被写体をファインダーで追い続けながらシャッターボタンを押します。望遠レンズを使うときは、手ブレしないようにカメラをしっかり構えてください。

● **川の流れや噴水を、流動感ある写真にするには**

　シャッター速度の数値を1/15秒以下に設定します。手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影してください。

● **ファインダー内の絞り数値が点滅しないシャッター速度を設定する**

　シャッターボタンを半押しして、絞り数値が表示されている状態でシャッター速度を変えると、露出（撮像素子に入る光の量）を一定にするために、絞り数値も一緒に変わります。このとき、絞り数値の調整範囲を超えると、標準露出にならないことを知らせるために絞り数値が点滅します。

　写真が暗くなるときは、小さな絞り数値が点滅します。〈 〉を左に回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。

　また、写真が明るくなるときは、大きな絞り数値が点滅します。〈 〉を右に回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

内蔵ストロボを使う

　自動設定された絞り数値に対し、適切な露出になるようにストロボの発光量が自動的に調整されます（自動調光）。なお、設定できるシャッター速度の範囲は、1/200秒～30秒に制限されます。

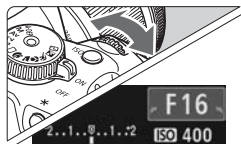
Av：ピントの合う奥行きを変える

背景をぼかした写真や、手前から遠くまでピントの合った写真など、ピントの合う奥行きを調整した写真は、モードダイヤルの〈**Av**〉（絞り優先AE）を使って撮影します。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略でレンズの中に入っている「絞り」の開口量のことです。

背景をぼかした写真
（小さい絞り数値）

背景にもピントの合った写真
（大きい絞り数値）

1 モードダイヤルを〈Av〉にする

2 絞り数値を設定する

- 数値が大きいほどピントの合う奥行きが深くなります。
- 数値は、〈ダイヤル〉を右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り数値で撮影されます。

絞り数値の表示について

数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される数値は使用するレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

撮影のポイント

● **絞り数値を大きくしたときや、暗い場所では手ブレに注意する**

　絞り数値を大きくするほどシャッター速度が遅くなります。また、暗い場所ではシャッター速度が最長30秒になります。ISO感度を上げてカメラをしっかり構えて撮影するか、三脚に固定して撮影してください。

● **ピントの合う奥行きは、絞り数値だけでなく、使用するレンズと撮影する距離によっても変わる**

　広角レンズはピントの合う奥行き（ピントが前後方向に合っている範囲）が広いので、絞り数値をあまり大きくしなくても手前から遠くまでピントの合った写真が撮影できます。逆に望遠レンズでは、ピントの合う奥行きが狭くなります。

　また、ピントの合う奥行きは、撮影する距離が近くなるほど狭くなり、撮影する距離が遠くなるほど広くなります。

● **ファインダー内のシャッター速度が点滅しない絞り数値を設定する**

　シャッターボタンを半押しして、シャッター速度が表示されている状態で絞り数値を変えると、露出（撮像素子に入る光の量）を一定にするために、シャッター速度も一緒に変わります。このとき、シャッター速度の調整範囲を超えると、標準露出にならないことを知らせるためにシャッター速度が点滅します。

　写真が暗くなるときは、「**30"**」（30秒）が点滅します。〈⚙〉を左に回して絞り数値を小さくするか、ISO感度を上げます。

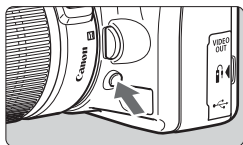
　また、写真が明るくなるときは、「**4000**」（1/4000秒）が点滅します。〈⚙〉を右に回して絞り数値を大きくするか、ISO感度を下げます。

内蔵ストロボを使う

設定した絞り数値に対し、適切な露出になるようにストロボの発光量が自動的に調整されます（自動調光）。シャッター速度は、その場の明るさに応じて、1/200秒～30秒の範囲で自動設定されます。

暗いところでは、主被写体は自動調光で、背景は自動設定される低速シャッターの組み合わせで、ともに標準露出の雰囲気のある写真になります（自動スローシンクロ撮影）。手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。手ブレを防ぐには三脚の使用をおすすめします。

なお、スローシンクロ撮影にならないようにしたいときは、メニュー［**カスタム機能（C.Fn）**］の［**Avモード時のストロボ同調速度**］（p.154）を［**1：1/200秒固定**］に設定します。

ピントの合う範囲を確認する 応用

絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値で絞り込みが行われ、ピントの合う奥行き（被写界深度）をファインダーで確認できます。

被写界深度の効果がわかりにくいときは、一番小さい絞り数値を設定し、絞り込みボタンを押したまま、ファインダーをのぞいて〈〉を右に回してください。徐々に絞り込みが行われ、少しずつファインダーが暗くなりますが、ピントの合う奥行きが深くなる様子が確認できます。

M: 露出値を固定して撮る

シャッター速度と絞り数値を自由に組み合わせて撮影することができます。ストロボを使用したときは、そのときの絞り数値に対し自動調光が行われます。なお、ストロボ撮影時に設定できるシャッター速度の範囲は、1/200秒～30秒、バルブに制限されます。

＊〈**M**〉は、Manual （マニュアル）の略です。

標準露出指標

露出レベルマーク

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈 〉を回して設定します。
- 絞り数値は、〈Av〉ボタンを押しながら〈 〉を回して設定します。

3 露出を決めて撮影する

- ファインダー内の露出レベル表示は、標準露出指標を中心に±2段まで表示されます。シャッター速度と絞り数値を変えながら露出レベルマークを動かし、標準露出に対してどの程度露出を変えるかを決めて撮影します。

長時間露光（バルブ）撮影

手順2で〈 〉を左に回して行くと、〈**BULB**〉（バルブ撮影）ができます。バルブ撮影は、シャッターボタンを押している間だけ露光を行う機能で、打ち上げ花火などの撮影に使用します。液晶モニターに露光経過時間が表示されます。

バルブ撮影を行うときは、リモートスイッチ（p.164）の使用をおすすめします。

- 長時間露光では、画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になります。メニュー［**カスタム機能（C.Fn）**］の［**長秒時露光のノイズ低減**］（p.155）を［**1：自動**］、または［**2：する**］に設定すると、ノイズを低減することができます。
- オートライティングオプティマイザ（p.156）は機能しません。

A-DEP：近くから遠くまでピントが合った写真を撮る

自動的に近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。すべてのAFフレームで被写体を検出し、検出できた範囲（奥行き）にピントが合うよう絞り数値が自動設定されます。

＊〈A-DEP〉は、Auto-Depth of field（オートデプスオブフィールド）の略でピントの合う奥行きを自動設定するという意味です。

1 モードダイヤルを〈A-DEP〉にする

2 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。（⏱4）
- 一瞬赤く光ったAFフレームのすべてにピントが合います。

3 撮影する

? こんなときは

- **ファインダー内の絞り数値が点滅する**

  露出は合っていますが、希望したピントの奥行きが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。

- **ファインダー内のシャッター速度が点滅する**

  「**30"**」が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げてください。また、「**4000**」が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げてください。

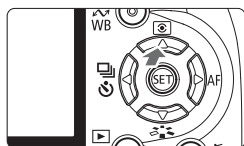
- **遅いシャッター速度が設定された**

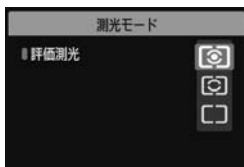
  カメラを三脚に固定して撮影してください。

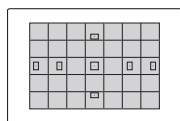
- **ストロボを使いたい**

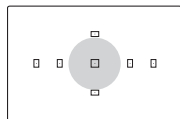
  使用できますが、〈**P**〉のストロボ撮影と同じ結果になり、希望したピントの奥行きが得られません。

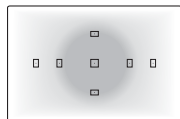
測光モードを変える 応用

測光モードは、被写体の明るさを測る機能の特性のことです。通常は、評価測光をおすすめします。

1 〈▲ 〉ボタンを押す

➡［**測光モード**］が表示されます。

2 測光モードを選ぶ

● 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。

評価測光

逆光撮影を含む一般的な人物撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。かんたん撮影ゾーンのときに自動設定されます。

部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合に有効です。図の灰色部分が標準露出になるよう測光が行われます。

中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。経験豊富な上級者向けの測光モードです。

自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。露出を明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することができます。**設定した補正量は、電源スイッチを切っても自動的に解除されません。撮影が終わったら必ず設定をゼロに戻してください。**

Av± 露出補正を使って撮影する

ストロボを使用しないときの撮影結果が、思いどおりの明るさになっていないときに使用します。この機能は、〈**M**〉以外の応用撮影ゾーンで使用できます。

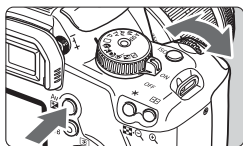
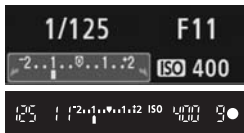
明るくなるようプラス補正

1/125 F5.6
-2..1..0..1..+2 ISO 400

125 5.6 -2..1..▼..1..+2 ISO 400 9●

暗くなるようマイナス補正

1/125 F11
-2..1..0..1..+2 ISO 400

125 11 -2..1..▼..1..+2 ISO 400 9●

撮影結果が暗いとき

〈Av±〉ボタンを押しながら〈 〉を右に回します。（プラス補正）

撮影結果が明るいとき

〈Av±〉ボタンを押しながら〈 〉を左に回します。（マイナス補正）

➡ 図のように、液晶モニターとファインダー内の露出レベル表示が動きます。

● 撮影が終わったら、〈Av±〉ボタンを押しながら〈 〉を回して、補正量をゼロに戻します。

暗めの露出

明るくなるようプラス補正

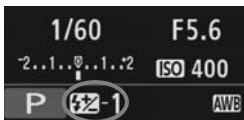
調光補正 ストロボ調光補正を使って撮影する 応用

ストロボ撮影のときに、被写体が思いどおりの明るさになっていない（ストロボの発光量を調整したい）ときに使用します。外部ストロボのEXシリーズスピードライト使用時もこの機能を使うことができます。

1 ［調光補正］を選ぶ

- ［📷:］タブの［**調光補正**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 補正量を設定する

- 撮影結果が暗いときは、〈▶〉ボタンを押します。（プラス補正）
  撮影結果が明るいときは、〈◀〉ボタンを押します。（マイナス補正）
- 補正量を設定したら〈(SET)〉を押します。
- シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターに〈調光補正〉と設定値が、ファインダー内には〈調光補正〉が表示されます。
- 撮影が終わったら手順2の操作で、補正量をゼロに戻します。

明るめの露出

暗くなるようマイナス補正

メニュー［**🔧: カスタム機能（C.Fn）**］の［**オートライティングオプティマイザ**］（p.156）が［**0：使う**］に設定されていると、露出補正と調光補正の補正効果が小さくなることがあります。設定したとおりの効果を得たいときは、［**1：使わない**］に設定してください。

MENU 明るさを自動的に変えて撮影する 応用

露出補正の応用機能で、作例のように段階露光で自動的に明るさの異なる写真を撮影し、あとで一番好ましい明るさの写真を選ぶことができます。この機能を使った撮影のことを、AEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケティング）撮影といいます。

標準露出

暗くなるよう補正
（マイナス補正）

明るくなるよう補正
（プラス補正）

1 ［AEB設定］を選ぶ

- ［📷:］タブの［AEB設定］を選び、〈SET〉を押します。

AEBレベル

2 AEBレベルを設定する

- 〈◀▶〉を押してAEBレベルを設定し、〈SET〉を押します。
- シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターにAEBレベルが表示されます。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定されているドライブモード（p.63）に従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

AEB撮影の解除

- 手順1、2の操作でAEBレベルを〈-2..1..0..1.:2〉にします。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボ充電完了などで、AEB設定が自動解除されます。

撮影のポイント

- **連続撮影と組み合わせる**

　連続撮影〈□〉(p.63) に設定してシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に連続撮影して自動停止します。

- **ドライブモードが1枚撮影（□）のときは**

　シャッターボタンを3回押して撮影してください。標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

- **露出補正と併用できる**

　露出補正した明るさを中心にして、AEB撮影が行われます。

- **セルフタイマーと併用できる**

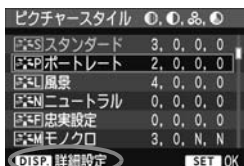
　セルフタイマー〈10〉または〈2〉を使うと、1回の撮影操作で3枚連続撮影されます。なお、〈C〉に設定したときは、設定した枚数（p.53）の3倍の枚数が連続撮影されます。

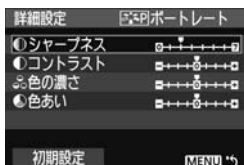
- ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。
- メニュー［カスタム機能 (C.Fn)］の［オートライティングオプティマイザ］(p.156) が［0：使う］に設定されていると、AEB撮影の補正効果が小さくなることがあります。設定したとおりの効果を得たいときは、［1：使わない］に設定してください。

ピクチャースタイルを調整する 応用

それぞれのピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容（[**シャープネス**]［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りをかさねて確認してください。[**モノクロ**］の調整については、84ページを参照してください。

1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

- ［📷］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面になります。

2 スタイルを選ぶ

- スタイルを選び〈DISP.〉ボタンを押します。
- ➡ 詳細設定画面になります。

3 項目を選ぶ

- ［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を設定する

- 〈◀▶〉を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ 初期設定から変更した数値が、青色で表示されます。

設定内容とその効果

シャープネス

被写体の鮮鋭度（シャープネス）の度合いが調整できます。

初期設定よりも被写体の鮮鋭度を弱くしたいときは、0 側に設定します。0に近づけるほど柔らかい（ぼやけた）感じの写真になります。

逆に被写体の鮮鋭度を強くしたいときは、7側に設定します。7に近づけるほど硬い（シャープな）感じの写真になります。

コントラスト

写真の明るい部分と暗い部分の明暗差（コントラスト）や、色のメリハリの強さが調整できます。

初期設定よりもコントラストを弱くしたいときは、マイナス側に設定します。−に近づけるほど全体的におとなしい感じの写真になります。

逆にコントラストを強くしたいときは、プラス側に設定します。＋に近づけるほど全体的にくっきりした感じの写真になります。

色の濃さ

写真全体の色の濃さが調整できます。

初期設定よりも薄い発色にしたいときは、マイナス側に設定します。−に近づけるほど全体的に色の薄い写真になります。

逆に濃い発色にしたいときは、プラス側に設定します。＋に近づけるほど全体的に色の濃い写真になります。

色あい

肌の色あいが調整できます。

初期設定よりも肌色を赤めにしたいときは、マイナス側に設定します。−に近づけるほど肌の色あいが赤くなります。

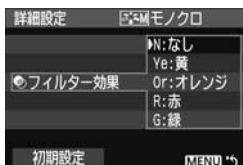
逆に肌の色あいを赤色寄りにしたくないときは、プラス側に設定します。＋に近づけるほど肌の色あいが黄色寄りになります。

手順3で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに、設定した内容を初期状態に戻すことができます。

モノクロの調整

前のページで説明した［**シャープネス**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］、［**調色**］を設定することができます。

フィルター効果

フィルター効果を使うと、同じモノクロ写真でも、白い雲や木々の緑を強調した写真にすることができます。

フィルター	効果例
N：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ写真にすることができます。より印象的な写真を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

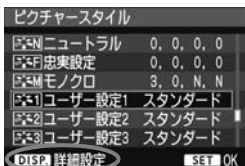
ピクチャースタイルを登録する 応用

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。

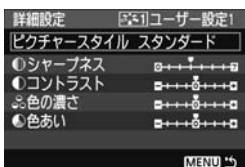
シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。また、付属のソフトウェアからカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

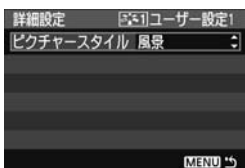
1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

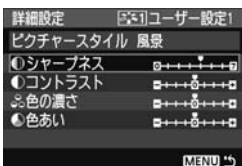
- ［ ］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈SET〉を押します。

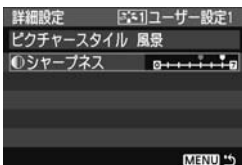
➡ スタイル選択画面になります。

2 ［ユーザー設定］を選ぶ

- ［**ユーザー設定＊**］を選び〈DISP.〉ボタンを押します。

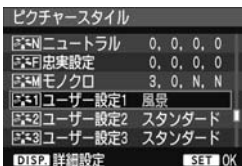
➡ 詳細設定画面になります。

3 〈SET〉を押す

- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。

4 基本にするスタイルを選ぶ

- 〈▲▼〉を押して基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- 付属のソフトウェアから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

5 項目を選ぶ

- ［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

6 内容を設定する

- 〈◀▶〉を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
  詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』（p.82～84）を参照してください。

- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ ［**ユーザー設定＊**］の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- ➡ ［**ユーザー設定＊**］に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

［**ユーザー設定＊**］にスタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定が無効になります。

MENU 色空間を設定する 応用

色空間とは、再現できる色の範囲（色域特性）のことです。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときは、sRGBをおすすめします。

かんたん撮影ゾーンではsRGBに自動設定されます。

1 ［色空間］を選ぶ

- ［▲:］タブの［色空間］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

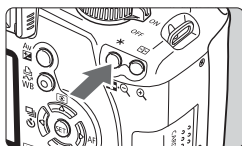
- ［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じになるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した画像は、ファイル名が「_MG_」（先頭文字がアンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

＊ 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈＊〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

2 〈＊〉ボタンを押す（4）

- ➡ ファインダー内に〈＊〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈＊〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈＊〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果

測光モード（p.77）	AFフレーム選択	
	自動選択	任意選択
◉*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
◎ □	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

⚹ FEロック撮影 応用

FEロック撮影は、被写体の任意の部分に調光させるストロボ撮影です。EXシリーズスピードライト使用時もこの機能を使うことができます。

＊FEは、Flash Exposure：フラッシュエクスポージャーの略です。

1 〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げる

- シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に〈ϟ〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる

3 〈⚹〉ボタンを押す（⏱16）

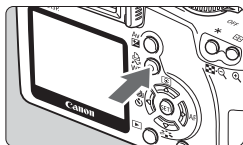
- ファインダーの中央に被写体をおいて、〈⚹〉ボタンを押します。
- ➡ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。
- ➡ ファインダー内に一瞬「**FEL**」と表示され、〈ϟ*〉が点灯します。
- 〈⚹〉ボタンを押すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。

4 撮影する

- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。
- ➡ ストロボが発光し、撮影されます。

❗ 被写体までの距離が遠すぎて、撮影結果が暗くなるときは〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいて、再度手順2〜4の操作をしてください。

WB: ホワイトバランスの設定 応用

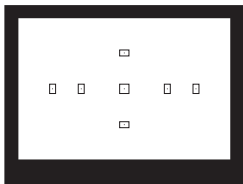
ホワイトバランス（WB）は白いものを白く写すための機能です。通常は〈AWB〉（オート）で適切なホワイトバランスが得られます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。かんたん撮影ゾーンでは〈AWB〉に自動設定されます。

1 〈WB〉ボタンを押す

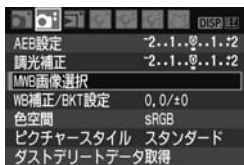
➡ ［ホワイトバランス］が表示されます。

2 ホワイトバランスを選ぶ

- 〈◀▶〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈☀〉〈⌂〉〈☁〉〈✳〉〈▦〉を選んだときに表示される「約****K」（K：ケルビン）は、設定される色温度です。

マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを厳密に設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

1 白い被写体を撮影する

- ファインダーの中央に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスの設定は、どれでも構いません。

2 [MWB画像選択] を選ぶ

- [📷:] タブの [**MWB画像選択**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定画面になります。

3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 手順1で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示されるメッセージ画面で [**OK**] を選ぶとデータが取り込まれます。
- メニュー画面に戻ったら、〈**MENU**〉ボタンを押してメニューを終了します。

4 マニュアルWBを選ぶ

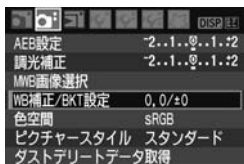
- 〈**WB**〉ボタンを押します。
- 〈◀▶〉を押して〈▲〉を選び、〈SET〉を押すと設定されます。

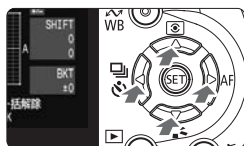
- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを [**モノクロ**] に設定して撮影した画像 (p.68) は、手順3で選択できません。

MENU ホワイトバランスを補正する 応用

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販品の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

ホワイトバランス補正

1 [WB補正/BKT設定] を選ぶ

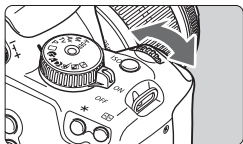
- [◘:] タブの [WB補正/BKT設定] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ WB 補正 /WB ブラケティング設定画面になります。

設定例：A2, G1

2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✥〉十字キーを押して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈DISP.〉ボタンを押すと [WB補正/BKT設定] の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

- WB補正中は、ファインダー内と液晶モニターに〈WB+/-〉が表示されます。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します。（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルー／アンバー寄りの色あい、またはマゼンタ／グリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。これをホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。

B/A方向±3段のとき

補正幅を設定する

- ホワイトバランス補正の手順2で〈〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。
  〈〉を右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈DISP.〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

記録される順番について

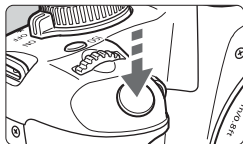
①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約1/3になります。また、メニュー［**カスタム機能（C.Fn）**］の［**高感度撮影時のノイズ低減**］（p.155）を［**1：する**］に設定すると、WBブラケティング撮影ができなくなります。

- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードへの画像記録時間が長くなります。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

カメラブレを防止する 応用

超望遠レンズを使用した撮影や近接（マクロ）撮影で、撮影時の機械的な振動（ミラーショック）が気になるときは、ミラーアップ撮影という方法を使います。

ミラーアップ撮影を行うときは、メニュー［ カスタム機能（C.Fn）］の［ミラーアップ撮影］（p.157）**を［1：する］に設定してください。**

- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しするとミラーが上がります。
- 一呼吸置いて、もう一度シャッターボタンを全押しすると撮影が行われ、ミラーが下がります。

撮影のポイント

- **セルフタイマーの〈 2〉を併用する**

  シャッターボタンを1回全押しするとミラーが上がり、2秒後にセルフタイマー撮影が行われます。

- レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（タイマー作動秒時+バルブ撮影時間）。タイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

- 〈 〉（連続撮影）にしていても、1枚撮影になります。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。

5

ライブビュー撮影

カメラの液晶モニターや、パソコンの画面に表示されるリアルタイム映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

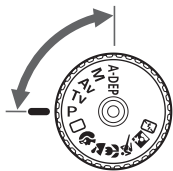
ライブビュー撮影は、カメラを三脚などに固定して、静物を撮影するときなどに有効です。

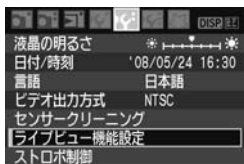
コンパクトデジタルカメラのように、カメラを手で持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。

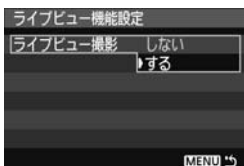
リモートライブビュー撮影について

付属ソフトウェアがインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

ライブビュー撮影の準備 応用

ライブビュー撮影ができるようにカメラを設定します。

1 撮影モードを設定する

- 応用撮影ゾーンの撮影モードを設定します。
- **かんたん撮影ゾーンでは、ライブビュー撮影はできません。**

2 ［ライブビュー機能設定］を選ぶ

- ［ ］タブの［**ライブビュー機能設定**］を選び、〈SET〉を押します。

3 ［ライブビュー撮影］を選ぶ

- ［**ライブビュー撮影**］を選び〈SET〉を押します。［**する**］を選び〈SET〉を押します。

4 メニュー表示を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニュー表示を終了します。

5 ライブビュー映像を表示する

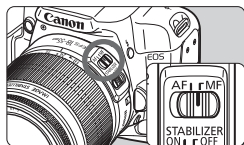
- 〈SET〉を押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。
- 映像が「明るすぎる」ときは〈 〉を右に回し、「暗すぎる」ときは〈 〉を左に回します。

- ライブビュー撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- ライブビュー撮影では、設定が無効になるカスタム機能があります。(p.153)
- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定してから撮影してください。
- 太陽など、極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽく、つぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影するとその部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所でメニュー［**ƒ: 液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、ライブビュー映像に色ノイズが発生することがあります。ただし、この色ノイズは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。
- メニュー［**ƒ: カスタム機能 (C.Fn)**］の［**オートライティングオプティマイザ**］(p.156) が［**0：使う**］に設定されているときは、暗めに露出補正しても明るく表示されることがあります。

- カメラを操作しない状態が続くと、メニュー［**ƒ オートパワーオフ**］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.109)。なお、設定が［**切**］のときは、約30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- 映像の視野率は、約100%です。
- 映像は、付属のビデオケーブルを使用して、テレビに表示することができます。（p.128）

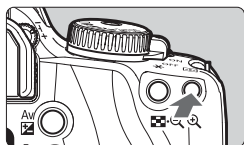
手動でピントを合わせる 応用

オートフォーカスによるピント合わせ（p.102、104）もできますが、厳密にピントを合わせたいときは、映像を拡大表示して「手動ピント合わせ」による撮影をおすすめします。

拡大して手動でピントを合わせる

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

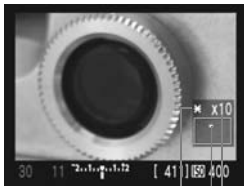
- レンズのフォーカスリングを回して、大まかにピントを合わせておきます。

2 ピントを合わせたい場所にフォーカスフレームを移動する

- 〈✥〉十字キーを押して、フォーカスフレームを移動します。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、フォーカスフレームが中央に移動します。

3 映像を拡大する

- 〈⊕〉ボタンを押します。
- ➡ フォーカスフレーム内が拡大されます。
- 〈⊕〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→5倍 → 10倍 → 通常表示 ─┘

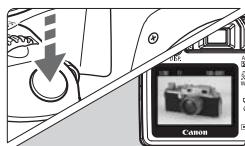
拡大率：10倍

AEロック
拡大表示位置
拡大率

4 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈⊕〉ボタンを押して通常表示にします。

撮影する 応用

1 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度と絞り数値が表示されます。
- 露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

2 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。

3 ライブビュー撮影を終了する

- 映像が表示された状態で〈SET〉を押します。

撮影機能の設定について

- 〈A-DEP〉は、〈P〉と同じ撮影結果になります。
- ISO 感度とホワイトバランスの変更、露出補正はライブビュー表示中に行うことができます。
- ピクチャースタイル、ドライブモード、AF モード、AF フレームの変更は、ライブビュー表示中はできません。
- 測光モードは設定に関係なく、ライブビュー撮影用の評価測光に固定されます。
- 絞り込みボタンを押すと、ピントの合う奥行きを確認することができます。
- 連続撮影時は、1枚目の露出で2枚目以降が撮影されます。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安

［約・枚］

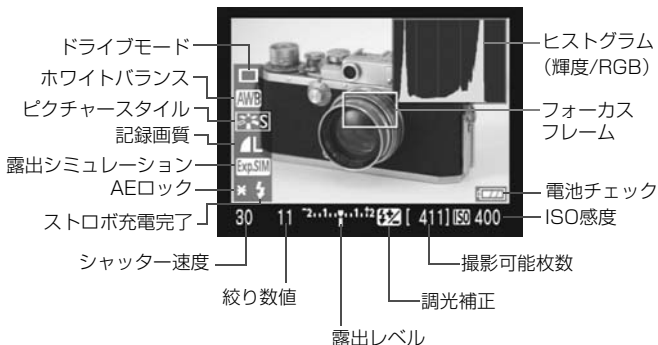
温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+23℃）	200	190
低温（0℃）	190	180

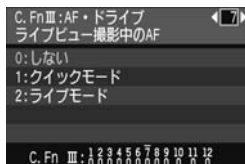
- 上記撮影可能枚数は、フル充電のLP-E5使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- AF撮影すると、撮影可能枚数が少なくなります。

- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影画像の画質が低下する恐れがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。特に、長秒時露光を行うときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。
- 高温・高ISO感度・長時間露光の条件でライブビュー撮影を行うと、画像にノイズや色ムラが発生することがあります。
- 拡大表示のまま撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻してから撮影してください。なお、拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値が赤く表示されます。
- 拡大表示で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。
- 超望遠レンズに搭載されている、フォーカスプリセット機能は使用できません。
- エクステンションチューブ、およびTS-Eレンズは、ライブビュー撮影では使用しないでください。露出ムラになったり、意図した露出にならないことがあります。
- 内蔵／外部ストロボ使用時にFEロックはできません。また、外部ストロボ使用時にモデリング発光はできません。
- 汎用ストロボは発光しません。

- グリッド（格子線）を表示することができます。［**ライブビュー機能設定**］の［**グリッド**］を［**表示する**］に設定します。
- 露出の保持時間（測光タイマー）を変えることができます。［**ライブビュー機能設定**］の［**測光タイマー**］で変更します。
- ストロボ撮影すると 2 枚撮影されたような音がしますが、撮影枚数は 1 枚です。

情報表示について

● 〈DISP.〉ボタンを押すと、押すたびに、情報表示内容が切り換わります。

- 〈Exp.SIM〉が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさでライブビュー映像が表示されていることを示しています。
- 〈Exp.SIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が適切な明るさで表示されていないことを示しています。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。
- ストロボ使用時、バルブ設定時は、〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で（参考）表示されます。なお、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

AFでピントを合わせる 応用

［カスタム機能（C.Fn)］の［ライブビュー撮影中のAF］（p.157）を［1：クイックモード］［2：ライブモード］に設定すると、AFによるピント合わせができるようになります。「クイックモード」と「ライブモード」は、AFの方式が異なります。

なお、厳密にピント合わせをしたいときは、映像を拡大して手動でピント合わせを行ってください。（p.98）

C.Fn-7-1：クイックモード

通常撮影時のAFと同じ方式（p.60、61）で、AF専用のセンサーを使ってピント合わせを行います。狙ったところに素早くピントを合わせることができますが、AF中はライブビュー表示が一時的に中断されます。

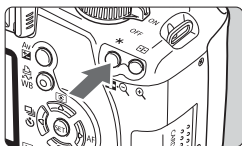
あらかじめ、「クイックモード」に設定し、レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉、AFモードは〈ONE SHOT〉に設定しておきます。

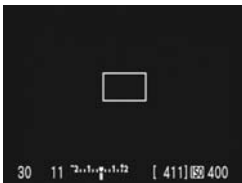
1 AFフレームを選ぶ

- AF フレームは、ライブビュー撮影を始める前に選んでおきます。
- 〈⊡〉ボタンを押して〈✥〉十字キーを押し、AFフレームを選択します。
- シャッターボタンを半押しして、撮影準備状態にします。

AFフレーム

2 ライブビュー映像を表示する

- 〈SET〉を押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 選択したAFフレームが表示されます。
- フォーカスフレーム（大きい枠）も表示されます。

3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、〈✱〉ボタンを押します（ボタンは押したままにします）。
- ➡ ライブビュー映像が消えてミラーが下がり、AFが行われます。
- ➡ ピントが合うと「ピピッ」と電子音が鳴ります。

4 ライブビュー表示に戻して撮影する

- 〈✱〉ボタンを離すとライブビュー表示に戻ります。
- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します。（p.99）

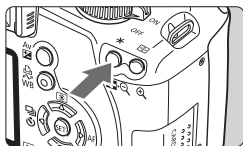
- AF中は撮影できません。ライブビュー映像が表示された状態で撮影してください。
- フォーカスフレームは、〈✥〉十字キーで移動させることができます。〈⊕〉を押すと、フォーカスフレーム内が拡大されます。
- AI サーボ AF、AI フォーカス AF の設定でピント合わせを行っても、ライブビュー表示（手順4）に戻すとAFが終了しますので、動いている被写体にピントを合わせることはできません。
- AFと露出決定（AEロック）を別々に行いたいときは、メニュー［**カスタム機能（C.Fn）**］の［**シャッターボタン/AEロックボタン**］（p.158）を［**1：AEロック/AF**］に設定します。
- リモートスイッチRS-60E3（別売）のレリーズボタンでは、AFできません。

C.Fn-7-2：ライブモード

撮像素子を使ってピント合わせを行います。ライブビュー表示のままAFできますが、「クイックモード」よりもAFに時間がかかります。また、「クイックモード」よりもピントが合いにくいことがあります。

あらかじめ、「ライブモード」に設定し、レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉に設定しておきます。

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈SET〉を押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 「ライブモード」設定時は、AFフレーム〈□〉が表示されます。

2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、〈✱〉ボタンを押します（ボタンは押したままにします）。
- ➡ AFが行われ、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わります。

3 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します。（p.99）

「ライブモード」のAFフレームについて

- AF フレームは、ピントを合わせたい場所に〈✥〉十字キーで動かすことができます（画面の端までは動きません)。〈🗑〉ボタンを押すと中央に移動します。
- 〈⊕〉ボタンを押すと、AFフレームの部分が拡大表示されます。

- 拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFしてください。
- 映像がちらついて（フリッカーで）ピントが合いにくいときは、一旦ライブビュー撮影を終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。映像のちらつきがなくなったことを確認してからAFを行ってください。
- 通常表示でAFを行ったあと、拡大表示を行うと正確にピントが合っていないことがあります。
- AF補助光は投光されません。
- リモートスイッチRS-60E3（別売）のレリーズボタンでは、AFできません。

- 被写体条件や使用するレンズによっては、「ピントが合いにくい」、「ピント合わせにしばらく時間がかかる」ことがあります。このようなときは、手動フォーカス（p.98）、またはクイックモード（p.102）でピントを合わせてください。
- ピントが合った状態でも、〈✱〉ボタンを押すと再度ピント合わせが行われます。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- AFと露出決定（AEロック）を別々に行いたいときは、メニュー［**🔧: カスタム機能（C.Fn)**］の［**シャッターボタン/AEロックボタン**］（p.158）を［**1：AEロック/AF**］に設定します。
- 通常表示と拡大表示では、AF速度が異なることがあります。

「ライブモード」のAFで、ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面など、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 横縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯などの照明下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 光を強く反射している被写体
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合（おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 近づく（または遠ざかる）被写体
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合

6

知っていると便利な機能

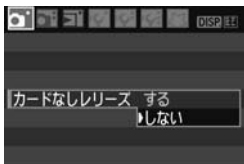
普段使う上で便利な機能

MENU 電子音が鳴らないようにする

合焦音やセルフタイマーの電子音が鳴らないようにします。

[🔴˙] タブの [**電子音**] を選び、〈SET〉を押します。[**切**] を選び〈SET〉を押します。

MENU カードの入れ忘れを防止する

カードが入っていないときに、撮影できないようにします。

[🔴˙] タブの [**カードなしレリーズ**] を選び、〈SET〉を押します。[**しない**] を選び〈SET〉を押します。

カードを入れないでシャッターボタンを押すと、ファインダー内に「**Card**」が表示されてシャッターが切れません。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される、画像の表示時間を変更することができます。[**切**] に設定すると、撮影直後に画像は表示されません。[**ホールド**] に設定すると、[**オートパワーオフ**] の時間まで画像が表示されます。なお、画像表示中にシャッターボタン半押しなどのカメラ操作を行うと、表示が終了します。

[🔴˙] タブの [**撮影画像の確認時間**] を選び、〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

MENU 電源が切れるまでの時間を設定する

カメラを操作しない状態で放置したときに、節電のために電源が切れるまでの時間を変更することができます。この機能が働いて電源が切れたときは、シャッターボタンを半押しするか、〈MENU〉〈DISP.〉〈▶〉〈SET〉ボタンなどを押すと電源が入ります。

［切］の設定にしたときは、節電のために電源をこまめに切るか、〈DISP.〉ボタンを押して撮影機能の設定状態表示を消すことをおすすめします。

なお、［切］の設定でもカメラを30分間放置すると、液晶モニターが消灯します。もう一度液晶モニターを点灯させるときは、〈DISP.〉ボタンを押してください。

［ʏ̈́］タブの［**オートパワーオフ**］を選び、〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを調整することができます。

［ʏ̈́］タブの［**液晶の明るさ**］を選び、〈SET〉を押します。調整画面で〈◀▶〉を押して明るさを調整し、〈SET〉を押します。

露出を確認するときは、目盛を4の位置にして、なるべく外光の影響を受けないようにしてください。

MENU 画像番号の付けかたを設定する

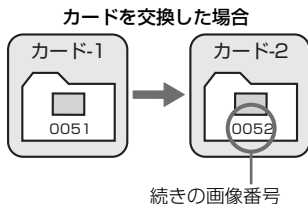
画像番号は、フィルムのコマ番号に相当するもので、撮影した順に0001〜9999の番号が付けられて、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付けかたを変えることができます。

画像番号は、パソコンでは IMG_0001.JPG というような形で表示されます。

［ʏ̈］タブの［**画像番号**］を選び、〈SET〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈SET〉を押します。

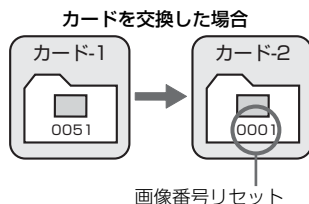
● **［通し番号］：カードを交換しても連番で保存したいとき**

カードを交換して撮影しても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号で保存されます。複数のカードにまたがった0001〜9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換するカードにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化されたカードを使用してください。

● [オートリセット]：カードの交換で、画像番号を0001にしたいとき

カードを交換して撮影すると、画像番号0001から順に番号が付けられ保存されます。カード単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換するカードにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像番号0001の画像から順に保存したいときは、初期化されたカードを使用してください。

カードを交換した場合

● [強制リセット]：任意に画像番号を 0001 にしたり、新しいフォルダに画像を保存したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001の画像から順に保存されます。前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります。

フォルダ番号999のフォルダが作成されると、液晶モニターに［**フォルダ番号がいっぱいです**］と表示されます。そのフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

ファイル名は、JPEG画像、RAW画像ともに「IMG_ 」になります。拡張子は、JPEG画像が「 .JPG」、RAW画像が「 .CR2」になります。

MENU 縦位置画像の自動回転表示の設定

縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときやパソコンで見るときに、被写体が横向きで表示されないよう自動回転させて表示していますが、この設定を変えることができます。

［Y˙］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈SET〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈SET〉を押します。

- **［する 📷 🖥］**：カメラで再生するときと、パソコンで見るときに自動回転させたいとき
- **［する 🖥］**：パソコンで見るときだけ自動回転させたいとき
- **［しない］**：自動回転させたくないとき

? こんなときは

- **撮影直後に表示される画像が回転表示されない**

  〈▶〉ボタンを押して、画像を再生したときに回転表示が行われます。

- **［する 📷 🖥］にして再生しても回転表示されない**

  ［**しない**］の設定で撮影した画像は回転表示されません。また、カメラを上や下に向けて撮影すると、正しく回転表示されないことがあります。その場合は、126ページの『回転させる』の操作で画像を回転させることができます。

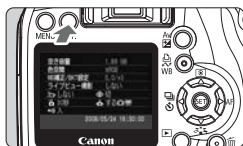
- **［する 🖥］で撮影した画像をカメラで回転表示させたい**

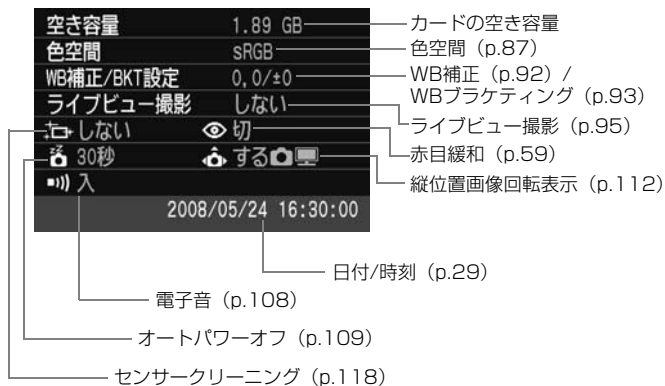
  ［**する 📷 🖥**］に設定して再生すると、回転表示が行われます。

- **パソコンの画面で回転表示されない**

  回転表示に対応していないソフトウェアです。付属のソフトウェアを使用してください。

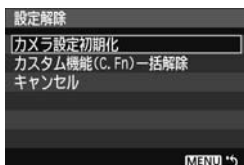
DISP. カメラの設定内容を確認する

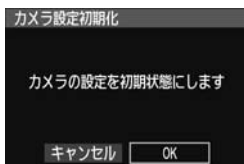
メニュー表示中に〈DISP.〉ボタンを押すと、現在カメラに設定されている主な機能の内容を確認することができます。

- メニュー画面を表示した状態で、〈DISP.〉ボタンを押すと表示されます。
- もう一度〈DISP.〉ボタンを押すとメニューに戻ります。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影機能の設定状態表示に戻ります。

設定内容表示

MENU カメラの設定状態を初期状態に戻す 応用

カメラの撮影機能やカスタム機能を、設定前の初期状態に戻すことができます。〈**P**〉などの応用撮影ゾーンで操作できます。

1 ［設定解除］を選ぶ

- ［ɪɣ:］タブの［**設定解除**］を選び、〈SET〉を押します。

2 項目を選ぶ

- 撮影機能を初期状態に戻すときは、［**カメラ設定初期化**］を選び〈SET〉を押します。
- カスタム機能を初期状態に戻すときは、［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選び〈SET〉を押します。

3 ［OK］を選ぶ

- ［**OK**］を選び〈SET〉を押すと初期状態になります。

➡ ［**カメラ設定初期化**］を実行すると、カメラの主な撮影機能は、次の表のようになります。

撮影機能関係

項目	設定
AFモード	ワンショットAF
AFフレームの選択	自動選択
測光モード	◉（評価測光）
ドライブモード	□（1枚撮影）
露出補正	0（ゼロ）
AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
ライブビュー撮影	しない

画像関係

項目	設定
記録画質	◢L
ISO感度	Auto
画像番号	通し番号
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB（オートWB）
WB補正	解除
WBブラケティング	解除
ピクチャースタイル	スタンダード

* マニュアルホワイトバランスで取り込んだホワイトバランスデータ（p.90）と、ダスト デリート データ（p.119）は消去されます。

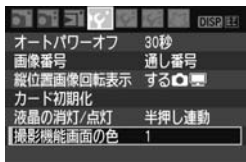
MENU 液晶モニターの消灯/点灯の設定

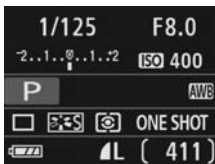
撮影機能の設定状態（p.42）の表示が、シャッターボタンの半押しに連動して、消えたり点いたりしないようにすることができます。

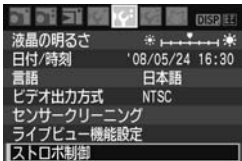
［ﾄ̇Y̓］タブの［**液晶の消灯/点灯**］を選び、〈SET〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈SET〉を押します。

- **［半押し連動］**：半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。
- **［半押し/DISP.］**：半押しすると表示が消えますが、指を離しても表示されません。〈DISP.〉ボタンまたは〈SET〉を押すと表示されます。
- **［消灯しない］**：半押ししても表示は消えません。消したいときは、〈DISP.〉ボタンまたは〈SET〉を押します。

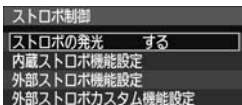
MENU 撮影機能設定状態の画面の色を変える

撮影機能設定状態の画面の背景色を変えることができます。

［撮影機能画面の色］を選ぶ

- ［ﾄ̇Y̓］タブの［**撮影機能画面の色**］を選び、〈SET〉を押します。
- 表示される画面で色を選び、〈SET〉を押します。
- メニューを終了すると、選んだ色をベースにした撮影機能の設定状態の画面が表示されます。

MENU ストロボ制御 応用

内蔵ストロボと外部ストロボに対する設定を、メニュー画面から行うこともできます。なお、外部ストロボに関するメニューは、**カメラからの外部ストロボ機能設定に対応したEXシリーズスピードライト装着時**のみ有効です。

［ストロボ制御］を選ぶ

- ［Ý］タブの［**ストロボ制御**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ストロボ制御画面になります。

［ストロボの発光］について

- 通常は、［**する**］を選びます。
- **［しない］を選ぶと、内蔵／外部ストロボとも発光しません。**ストロボのAF補助光だけを使いたいときに選びます。

［内蔵ストロボ機能設定］について

- ［**発光モード**］は選択できません。
- ［**調光補正**］は、79ページと同じ設定ができます。
- ［**E-TTL II**］は、次ページの説明を参考にして設定してください。

- **シンクロ設定**

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、撮影終了直前にストロボが発光します。低速シャッターと組み合わせると、車のライトなどの軌跡が自然な感じで写ります。なお、後幕シンクロでは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回、ストロボが発光します。

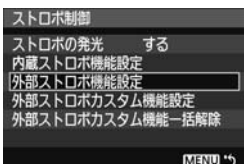
● E-TTL II

通常は、標準的なストロボ露出が得られる［**評価調光**］に設定します。

［**平均調光**］に設定すると、外部調光ストロボのように測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要な、上級者向けの設定です。

外部ストロボの設定について

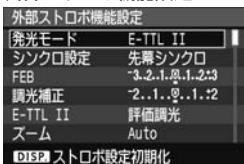
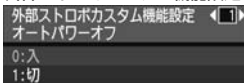
［**外部ストロボ機能設定**］と［**外部ストロボカスタム機能設定**］の設定を行います。設定内容については、**カメラからの外部ストロボ機能設定に対応したEXシリーズスピードライト**（例：580EX II）の使用説明書を参照してください。

ストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。

1 ［外部ストロボ機能設定］または［外部ストロボカスタム機能設定］を選ぶ

- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 設定できない項目は、暗く表示されます。

外部ストロボ機能設定

外部ストロボ機能設定
発光モード　E-TTL II
シンクロ設定　先幕シンクロ
FEB　-3..2..1..0..1..2:3
調光補正　-2..1..0..1..:2
E-TTL II　評価調光
ズーム　Auto
DISP. ストロボ設定初期化

外部ストロボカスタム機能設定

外部ストロボカスタム機能設定　1
オートパワーオフ
0:入
1:切

2 外部ストロボの機能を設定する

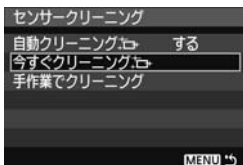
- 項目を選び機能を設定します。操作方法は、カメラのメニュー機能の設定と同じです。
- ストロボ機能設定画面で表示される内容や、設定できる項目は、現在設定されている発光モードや、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。
- 〈DISP.〉ボタンを押してストロボ設定を初期化すると、外部ストロボと内蔵ストロボの設定が初期化されます。

MENU 撮像素子の自動清掃

このカメラは、電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する

1 ［センサークリーニング］を選ぶ

- ［ꟷ］タブの［**センサークリーニング**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［今すぐクリーニング］を選ぶ

- ［**今すぐクリーニング**］を選び〈SET〉を押します。
- メッセージ画面で［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます。途中、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを垂直に置いて清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても、効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、［**今すぐクリーニング**］が一時的に選べなくなります。

自動清掃を行わないようにする

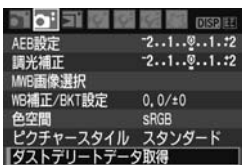
- 手順2で［**自動クリーニング**］を選び、［**しない**］を選びます。
- ➡ 電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

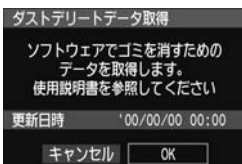
MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

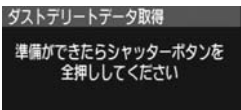
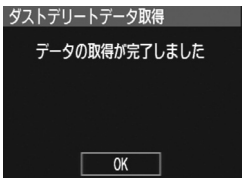
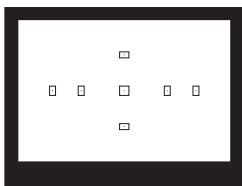
　通常は、セルフ クリーニング センサー ユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができます。しかし、除去できなかったゴミがある場合に備え、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

ダストデリートデータを取得する

1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

- ［📷:］タブの［ダストデリートデータ取得］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［OK］を選ぶ

- ［OK］を選び〈SET〉を押すと、撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。途中、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20 ～ 30cm の距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。
- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
  [OK] を選ぶと、メニューに戻ります。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、[OK] を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、付属ソフトウェアによる自動ゴミ消し処理については、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量はごく小さなものですので、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、付属ソフトウェア使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

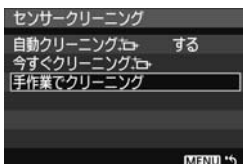
MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

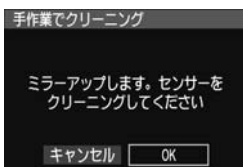
撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理受付窓口にお申し付けください。

清掃を始める前にレンズを取り外してください。

1 ［センサークリーニング］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**センサークリーニング**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［手作業でクリーニング］を選ぶ

- ［**手作業でクリーニング**］を選び〈SET〉を押します。

3 ［OK］を選ぶ

- ［**OK**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。

4 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

- 電源には、ACアダプターキットACK-E5（別売）の使用をおすすめします。
- 電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。なお、バッテリーグリップを装着して、電源に単3形電池を使用しているときは、手作業で撮像素子の清掃はできません。

- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  ・電源スイッチを〈OFF〉にする
  ・電池室ふたを開ける
  ・カードスロットカバーを開ける
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因となります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。

7

画像の確認方法

この章では、第2章の『かんたん撮影と画像確認』で説明した再生方法の応用的な使い方や、画像をテレビで見る方法、消去する方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明します。

他の機器で撮影・記録された画像について

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

▶ 見たい画像を素早く探す

⊞ 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる､インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚、または９枚の画像を表示させることができます。

1 インデックス表示にする

- 画像を再生した状態で、〈⊞·Q〉ボタンを押します。
- ➡ 4枚インデックス表示になります。選択されている画像に青色の枠が付きます。
- もう一度〈⊞·Q〉ボタンを押すと、9枚インデックス表示になります。

2 画像を選ぶ

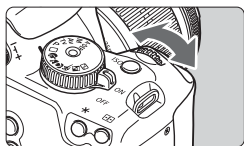
- 〈ダイヤル〉を回すと1画面分の画像が送られます。
- 〈✥〉十字キーで青色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈⊕〉ボタンを押すと、青色の枠で選んだ画像が拡大表示されます。（9枚→4枚→1枚）

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

カードの中に多くの画像があるときは、10枚、100枚単位で、間の画像を飛ばして画像送りをすることができます。また、撮影日の異なる画像があるときは、日付単位で画像送りをすることができます。この表示方法のことを、ジャンプ表示といいます。

ジャンプ方法
再生位置

1 ジャンプ方法を選ぶ

- **1 枚表示の状態で**、〈▲〉ボタンを押します。
- ➡ 画面右下にジャンプ方法と、現在再生している画像の位置が表示されます。
- 〈▲▼〉を押して、［**1枚/10枚/100枚/撮影日**］の中から、希望するジャンプ方法を選び、〈(SET)〉を押します。

2 画像送りをする

- 画像を再生した状態で〈ダイヤル〉を回します。
- ➡ 設定した方法でジャンプ表示が行われます。
- 1枚送りは〈◀▶〉で行います。

インデックス表示のときに、ジャンプ表示はできません。

🔍／🔍 拡大して見る

拡大表示位置

画像を拡大する

- 画像を再生し、〈🔍〉ボタンを押すと拡大表示されます。
- 〈🔍〉ボタンを押し続けると、最大10倍まで拡大します。
- 〈✣〉十字キーを操作すると表示位置が移動します。
- 〈⊞・🔍〉ボタンを押すと縮小表示になります。〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚再生に戻ります。

- 〈🎛〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります。
- 撮影直後の画像表示中からの拡大表示はできません。

回転させる

1 ［画像回転］を選ぶ

- ［▶̇］タブの［**画像回転**］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像を選んで回転させる

- 〈◀▶〉を押して回転する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了し、メニューに戻ります。

回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、メニュー［**ƒ' 縦位置画像回転表示**］を［**する📷 🖥**］に設定します。

MENU 自動再生する

カードに記録されている画像を自動的に連続再生することができます。画像1枚の表示時間は約4秒です。

1 ［オートプレイ］を選ぶ

- ［▶̇］タブの［**オートプレイ**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ オートプレイ画面になります。

2 自動再生する

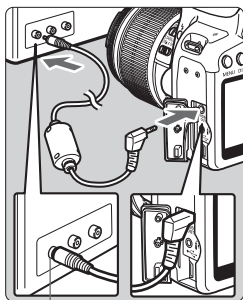
- ➡ ［**画像読み込み中...**］が数秒間表示されたあと、自動再生が始まります。
- 自動再生を一時停止したいときは、〈SET〉を押します。
- 一時停止中は画像の左上に［II］が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、自動再生が再開します。

3 自動再生を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、自動再生が終了し、メニューに戻ります。

- 自動再生中に〈DISP.〉ボタンを押すと、画像の表示形式を切り換えることができます。
- 一時停止中に〈◀▶〉を押すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフは機能しません。
- 画像により、表示時間が異なる場合があります。

テレビで見る

付属のビデオケーブルを使うと、カメラとテレビをつないで撮影した画像を見ることができます。接続するときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。

ビデオ入力端子

1 カメラをテレビに接続する

- カメラの端子カバーを開きます。
- カメラの〈VIDEO OUT〉ビデオ出力端子と、テレビのビデオ入力端子を付属のビデオケーブルで接続します。
- ケーブルのプラグは、根元までしっかりと差し込んでください。

2 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えをビデオ入力にする

3 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

4 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

- 見終わったら、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にして、テレビの電源を切ってから、ビデオケーブルを取り外します。

- テレビ方式と異なるビデオ出力方式が設定されていると、画像が正しく表示されません。そのときは、メニュー［**ビデオ出力方式**］で方式を切り換えてください。
- 付属のビデオケーブル以外は使用しないでください。画像が表示されないことがあります。
- 使用するテレビ（モニター）により、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。

保護する（プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないよう、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

1 [画像プロテクト] を選ぶ

- ［ ］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ プロテクト画面になります。

プロテクト表示

2 画像を選んでプロテクトをかける

- 〈◀▶〉を押してプロテクトをかける画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面の上に〈 〉が表示されます。
- もう一度〈(SET)〉を押すと、プロテクトが解除され〈 〉が消えます。
- 他にプロテクトをかけたい画像があるときは、手順2を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像プロテクトが終了し、メニューに戻ります。

カードを初期化すると（p.40）**、プロテクトされた画像も消去されます。**

- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（p.130）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

🗑 消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.129）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。RAW＋◢Lで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去

1 消去したい画像を再生する

2 〈🗑〉ボタンを押す

● 画面の下に消去メニューが表示されます。

3 消去する

➡［**消去**］を選び〈SET〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

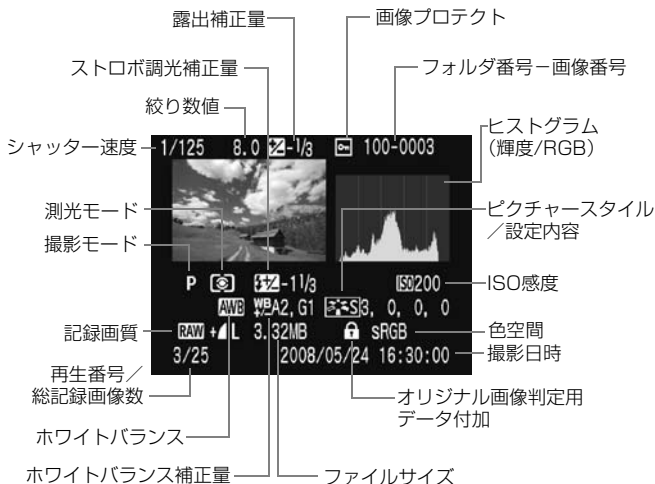
MENU チェック〈√〉を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することもできます。メニュー［**▶̇ 画像消去**］で［**選択して消去**］を選びます。〈▲▼〉で消去したい画像に〈✓〉を付けたあと、〈🗑〉ボタンを押します。

MENU カード内全画像消去

メニュー［**▶̇ 画像消去**］で［**カード内・全画像**］を選ぶと、カード内のすべての画像が消去されます。

DISP. 撮影情報表示の内容

1枚表示で再生しているときに〈DISP.〉ボタンを押すと、撮影情報の表示を切り換えることができます。一番詳しい撮影情報の内容は、以下のとおりです。

* RAW＋◢Lで撮影した画像は、◢Lのファイルサイズが表示されます。

● ハイライト警告表示について

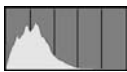
撮影情報表示にしたときに、白飛びした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

● ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、メニュー［▶ **ヒストグラム**］で行います。

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例

暗い成分が多い

普通の明るさ

明るい成分が多い

［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

8

画像の印刷とパソコンへの転送

● **印刷**（p.134）

カメラとプリンターを直接つないで、カードに記録されている画像を印刷することができます。このカメラは、ダイレクトプリント標準規格の「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応しています。

キヤノン製のカメラとプリンターを接続したときに、どのような用紙が使用できるかなどを、下記の弊社ホームページで確認することができます。

http://canon.jp/pictbridge/

● **画像を印刷指定する／DPOF**（p.143）

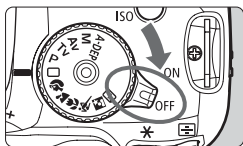
カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital（デジタル） Print（プリント） Order（オーダー） Format（フォーマット））に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

● **パソコンに画像を送る**（p.147）

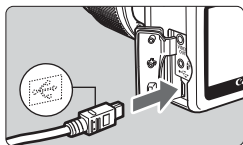
カメラとパソコンをつないで、カメラからの操作でカードに記録された画像をパソコンに送ることができます。

印刷の準備をする

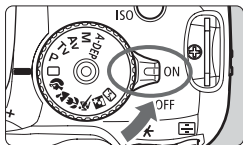
ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います**。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

- 詳しくはプリンターの使用説明書を参照してください。

3 カメラとプリンターを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈⇠〉マークが、カメラの前面に向くようにして、カメラの〈⇠〉端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる

5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

PictBridge

6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈〉が表示されます。
- ➡ 〈〉ボタンのランプが青色に点灯します。

- RAW画像は、ダイレクトプリントできません。
- 「CPダイレクト」または「Bubble Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- カメラとプリンターの接続には、付属のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。どのような問題が発生しているかは、次の操作で確認できます。
  1. 〈▶〉ボタンを押して画像を再生する
  2. 〈SET〉を押す
  3. 印刷設定画面で［**印刷**］を選ぶ

  液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。（p.142）

- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電した電池で約6時間印刷できます。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキットACK-E5（別売）の使用をおすすめします。

〈🖨〉印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

プリンター接続表示

1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈🖨〉が表示されていることを確認します。
- 〈◀▶〉を押して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ 印刷設定画面になります。

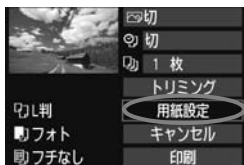
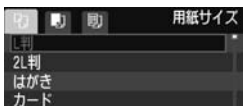
印刷設定画面

- 印刷効果を設定します（p.138）
- 日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します
- 何枚印刷するかを設定します
- 印刷範囲を設定します（p.141）
- 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
- 手順1の画面に戻ります
- 印刷を開始します
- 設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

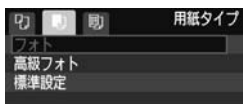
*** プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

3 ［用紙設定］を選ぶ

- ［**用紙設定**］を選び〈SET〉を押します。

➡ 用紙設定画面になります。

用紙サイズの設定

- プリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈SET〉を押します。

➡ 用紙タイプの設定画面になります。

用紙タイプの設定

- プリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈SET〉を押します。
- キヤノン製プリンターで、純正用紙を使うときは、プリンターの使用説明書で使用できる用紙を確認してください。

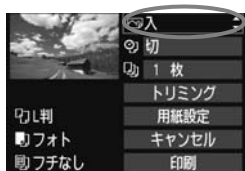
➡ レイアウトの設定画面になります。

レイアウトの設定

- 印刷レイアウトを選び〈SET〉を押します。

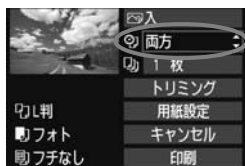
➡ 印刷設定画面に戻ります。

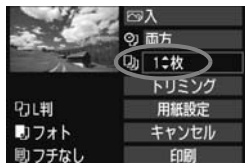
フチあり	用紙の周りに余白を付けて印刷します。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり i	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 i **35面配置 □**	DPOF（p.143）で印刷指定した画像を20画像、または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します。 ・［**20面配置 i**］では、撮影情報*を印刷します。
標準設定	プリンターの機種や設定により、印刷レイアウトが異なります。

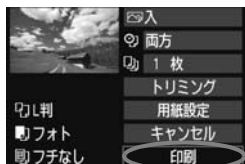
* Exif 情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。

4 印刷効果を設定する

- 必要に応じて設定します。設定しないときは、手順5に進みます。
- **表示される内容は、プリンターの機種により異なります。**
- 画面右上の項目を選び、〈SET〉を押します。印刷効果を選び〈SET〉を押します。
- 〈DISP.〉の横に〈☰〉が表示されているときは、印刷効果の調整を行うこともできます。（p.140）

項目	印刷内容
切	印刷特性は「入」と同じです。自動補正は行われません。
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
NR	画像のノイズ低減処理が行われ印刷されます。
顔明るく	逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。顔が明るく印刷されます。
赤目1	ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった画像で効果的です。目の赤みが緩和されて印刷されます。
B/W 白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W 冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W 温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	画像本来の色やコントラストを活かした印刷が行われます。自動色調整は行われません。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かい印刷調整を行うことができます。
標準設定	プリンターの機種により、印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。

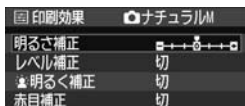
* **印刷効果の設定を変更すると、画面左上に表示されている画像に設定内容が反映されます。ただし、実際の印刷結果とは多少異なる場合があるため、目安としてとらえてください。140ページの［明るさ補正］と［レベル補正］も同様です。**

5 日付／画像番号印刷を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷内容を選び〈SET〉を押します。

6 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷枚数を選び〈SET〉を押します。

7 印刷する

- ［**印刷**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 〈〉ボタンの青いランプが点滅して、印刷が始まります。

- 同じ設定で別の画像を印刷するときは、画像を選んで、青いランプが点灯した〈〉ボタンを押すだけで「かんたん印刷」ができます。なお、「かんたん印刷」のときは、印刷枚数は指定できません（1枚ずつ印刷）。また、トリミングの設定は反映されません。
- トリミングについては、141ページを参照してください。
- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容については、プリンターの使用説明書を参照してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押して［**OK**］を選びます。

印刷効果の調整について

138ページの手順4で項目を選び、〈DISP.〉の横に〈〉が表示されているときに、〈DISP.〉ボタンを押すと、印刷効果の調整を行うことができます。調整できる（表示される）内容は、手順4の選択内容により異なります。

● **明るさ補正**

画像の明るさを調整することができます。

● **レベル補正**

［**手動**］を選ぶと、ヒストグラムの分布を変更して、画像の明るさとコントラストを調整することができます。

レベル補正画面で〈DISP.〉ボタンを押すと、〈〉の位置が切り換わります。〈◀▶〉を押すと、シャドウレベル（0〜127）、ハイライトレベル（128〜255）を任意に調整することができます。

● **明るく補正**

逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。［**入**］に設定すると、顔が明るく印刷されます。

● **赤目補正**

ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった（赤目現象が発生した）画像で効果的です。［**入**］に設定すると、目の赤みが緩和されて印刷されます。

- ［**明るく補正**］と［**赤目補正**］の効果は、画面で確認できません。
- ［**詳細設定**］を選ぶと、［**コントラスト**］［**色の濃さ**］［**色あい**］［**カラーバランス**］を調整することができます。なお、［**カラーバランス**］の調整は、〈✜〉十字キーで行います。Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- ［**初期化**］を選ぶと、設定した印刷効果の内容がすべて初期状態に戻ります。

トリミング（印刷範囲）の設定

画像を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷することができます。**トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。**トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、［**用紙設定**］の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈拡大〉〈縮小〉ボタンを押すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

〈十字キー〉十字キーを操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

〈DISP.〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

➡ 印刷設定画面に戻ります。
- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認することができます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくすると、印刷の画質が粗くなることがあります。
- トリミングは、液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングを行うと、枠が正しく表示されないことがあります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、[**続行**]を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

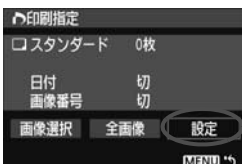
選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

画像を印刷指定する／DPOF

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する

1 ［印刷指定］を選ぶ

➡ ［ ］タブの［**印刷指定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［設定］を選ぶ

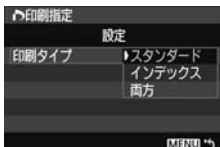
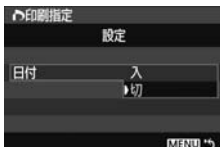
● ［**設定**］を選び〈SET〉を押します。

3 項目の内容を設定する

● ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。

● 項目を選び〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

［**印刷タイプ**］

［**日付**］

［**画像番号**］

項目	設定		内容
印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入		［入］にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。
	切		
画像番号	入		［入］にすると、画像番号を付けて印刷します。
	切		

4 設定を終了する

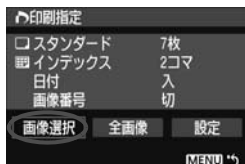
- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の［**画像選択**］［**全画像**］で、印刷する画像を指定します。

- ［**日付**］［**画像番号**］を［**入**］にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF 対応プリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

- RAW画像は印刷指定できません。
- ［**インデックス**］に設定したときは、［**日付**］と［**画像番号**］を同時に［**入**］にできません。

印刷する画像を指定する

● 画像選択

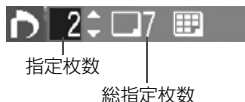
画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈⊞·Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈⊕〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

指定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

[スタンダード][両方]

〈▲▼〉を押して、表示されている画像の印刷枚数を指定します。

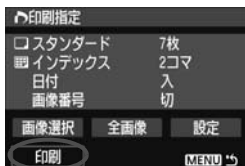
[インデックス]

〈▲▼〉を押して、〈✓〉を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

● 全画像

[**カード内の全画像を指定**]を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、[**カード内の全画像指定を解除**]を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- 全画像指定を行っても、RAW画像は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を、400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

印刷指定画像のダイレクトプリント

印刷指定した画像を、PictBridge対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

- 134ページを参照してください。
  『カメラとプリンターを接続する』の手順5まで行います。

2 [▶̇] タブの [印刷指定] を選ぶ

3 [印刷] を選ぶ

- [**印刷**] は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

4 [用紙設定] の内容を設定する（p.136）

- 印刷効果（p.138）は必要に応じて設定します。

5 [OK] を選ぶ

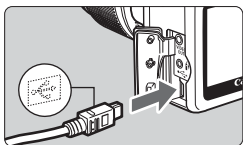
- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- [**フチあり**] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。

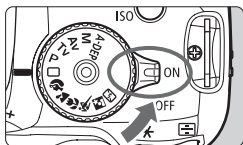
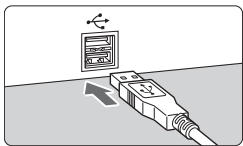
- [**レベル補正**] の [**手動**] は選択できません。
- 印刷を中止したあとに、残りの画像を印刷するときは、[**再開**] を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
  - ・再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき／インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき／印刷を中断したときに、カードの空き容量が少なかったとき
- 印刷中に問題が発生したときは、142ページを参照してください。

パソコンに画像を送る

　カメラとパソコンをつないで、カメラからの操作でカードに記録された画像をパソコンに送ることができます。これをダイレクト画像転送機能といいます。

カメラとパソコンを接続する前に、必ず付属ソフトウェア（EOS（イオス） DIGITAL（デジタル） Solution（ソリューション） Disk（ディスク）／CD-ROM）をパソコンにインストールしてください。
付属ソフトウェアのインストール方法については、別紙のCD-ROMガイドを参照してください。

画像転送の準備

1 カメラとパソコンを接続する

- カメラの電源を切った状態で接続します。
- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときはプラグの〈⭠〉マークが、カメラの前面に向くようにして、カメラの〈⭠〉端子に差し込みます。
- パソコンのUSB 端子にプラグを差し込みます。

2 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

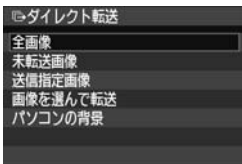
- パソコンに、プログラムを選択する画面が表示されたときは、［EOS Utility］を選びます。
  カメラの機種を選択する画面が表示されたときは、このカメラの名称を選びます。

➡ パソコンに［EOS Utility］の画面が表示され、カメラの液晶モニターにダイレクト転送画面が表示されます。

ダイレクト転送画面表示中は、撮影できません。

- ［EOS Utility］の画面が表示されないときは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。

パソコンに画像を送る

パソコンに送られた画像は、［**マイピクチャ**］フォルダ、または［**ピクチャ**］フォルダに、撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。

カードに入っている、すべての画像をパソコンに送る

- ［**全画像**］を選び〈⎙〜〉ボタンを押します。
- ➡ 〈⎙〜〉ボタンの青いランプが点滅して、画像転送が始まります。
- ➡ 転送が終わると点灯します。

［**全画像**］以外の項目は、次のようになっています。〈⎙〜〉ボタンを押すと画像転送が始まります。

- **未転送画像**

  パソコンに転送されていない画像を、カメラが自動的に選んで転送します。

- **送信指定画像**

  パソコンに送る画像を指定して、まとめて転送します。画像の指定方法は、次のページを参照してください。

● **画像を選んで転送**

〈◀▶〉を押して、画像を一枚ずつ選んでパソコンに転送します。終了するときは〈MENU〉ボタンを押します。

● **パソコンの背景**

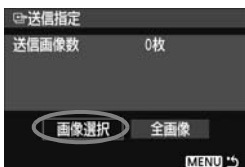
画像を選び、転送するとパソコンのデスクトップの背景（壁紙）として表示されます。終了するときは〈MENU〉ボタンを押します。

● 〈⎙〉ボタンを押す代わりに〈SET〉を押すと、確認画面が表示されます。［OK］を選んで〈SET〉を押すと転送が始まります。
● RAW画像は、壁紙として転送できません。

MENU パソコンに送る画像を指定する

パソコンに送る画像を1枚ずつ指定します。

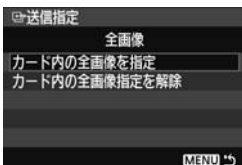
1 ［送信指定］を選ぶ

● ［▶］タブの［**送信指定**］を選び、〈SET〉を押します。
➡ 送信指定画面になります。

2 ［画像選択］を選ぶ

● ［**画像選択**］を選び〈SET〉を押します。
➡ 画像が表示されます。

3 送信指定する画像を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して画像を選び、〈▲▼〉を押して画面左上に〈✓〉を表示させます。
- この手順を繰り返して送信する画像を指定します。最大998画像（枚）まで指定できます。
- 〈MENU〉ボタンを2回押すと、指定した内容がカードに保存され、メニューに戻ります。

［全画像］について

手順2で［**全画像**］を選ぶと、左の画面が表示されます。［**カード内の全画像を指定**］を選び、〈SET〉を押すと、最大998枚の画像が一括して送信指定されます。

［**カード内の全画像指定を解除**］を選び、〈SET〉を押すと、送信指定がすべて解除されます。

他のカメラで送信指定した画像を、このカメラに入れて再度送信指定しないでください。送信指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、送信指定できないことがあります。

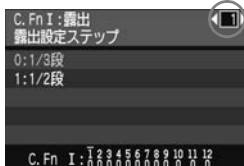
- 記録画質RAW＋◢Lで撮影した画像を送信指定すると、“1枚”としてカウントされますが、RAW画像、JPEG画像ともにパソコンに転送されます。
- 手順3で〈⊡・Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈Q〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。
- 999画像以上を一度に転送するときは、ダイレクト転送画面で［**全画像**］を選んでください。（p.148）

カメラの機能を自分好みに変更する

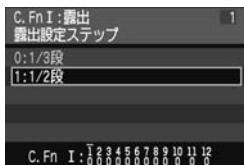
撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。カスタム機能は、応用撮影ゾーンで設定／機能します。

MENU カスタム機能の設定方法 応用

1 ［カスタム機能（C.Fn）］を選ぶ

● ［機能設定］タブの［**カスタム機能（C.Fn）**］を選び、〈SET〉を押します。

カスタム機能番号

2 カスタム機能番号を選ぶ

● 〈◀▶〉を押して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。

3 設定を変更する

● 〈▲▼〉を押して設定内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。
● 手順2、3を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。
● 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。

4 設定を終了する

● 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

カスタム機能の設定をすべて解除するときは

メニュー［**設定解除**］で［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。（p.114）

カスタム機能一覧

C.Fn I：露出

1	露出設定ステップ	p.154
2	Avモード時のストロボ同調速度	

C.Fn II：画像

3	長秒時露光のノイズ低減	p.155
4	高感度撮影時のノイズ低減	
5	オートライティングオプティマイザ	p.156

C.Fn III：AF・ドライブ

6	AF補助光の投光	p.157
7	ライブビュー撮影中のAF	
8	ミラーアップ撮影	

C.Fn IV：操作・その他

9	シャッターボタン/AEロックボタン	p.158
10	撮影時のSETボタン	
11	電源スイッチ〈ON〉時の液晶点灯	p.159
12	オリジナル画像判定用データの付加	

番号に □ が付いたカスタム機能は、ライブビュー撮影時は機能しません（設定が無効となります）。なお、C.Fn-7-1, 2設定時にAEロックを行いたいときは、C.Fn-9-1を設定します。

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

カスタム機能は、機能ごとに4つのグループ（「C.Fn I：露出」、「C.Fn II：画像」、「C.Fn III：AF・ドライブ」、「C.Fn IV：操作・その他」）に分類されています。

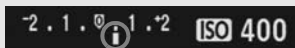
C.Fn I：露出

C.Fn-1　露出設定ステップ

0： 1/3段

1： 1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEBなどの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

ファインダー内と液晶モニターの露出レベル表示は図のようになります。

C.Fn-2　Av（絞り優先AE）モード時のストロボ同調速度

0： 自動

明るさに応じて、シャッター速度が1/200秒から30秒に自動設定されます。

1： 1/200秒固定

〈**Av**〉（絞り優先AE）モードでストロボ撮影を行うと、シャッター速度が1/200秒に固定されるため、手ブレを気にせずに撮影することができます。（ただし、夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、被写体の背景が暗くなります。）

C.Fn II：画像

C.Fn-3　長秒時露光のノイズ低減

0：しない

1：自動

　露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この［**自動**］で十分な効果が得られます。

2：する

　露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

- 撮影後、低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。この場合、低減処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 2設定時、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、液晶モニターに何も表示されません（ライブビュー表示は行われません）。

C.Fn-4　高感度撮影時のノイズ低減

0：しない

1：する

　画像に発生するノイズを低減することができます。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に効果的です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。

1設定時は、連続撮影、ホワイトバランスブラケティングはできません。

C.Fn-5　オートライティングオプティマイザ

0：使う

撮影結果が暗い場合や、コントラストが低い場合に、明るさ・コントラストをカメラが自動的に補正します（撮影条件によっては、ノイズが増える場合があります）。なお、マニュアル露出時と記録画質がRAW、RAW＋◢Lのときは、機能しません。

かんたん撮影ゾーンでは、オートライティングオプティマイザが自動的に働きます。

 ➡

1：使わない

C.Fn III：AF・ドライブ

C.Fn-6　AF補助光の投光

内蔵ストロボによるAF補助光、EOS用外部ストロボのAF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

1：しない

AF補助光は投光されません。

2：外部ストロボ使用時のみ投光する

EOS用外部ストロボ使用時は、必要に応じてAF補助光が投光されます。内蔵ストロボからAF補助光は投光されません。

EOS用外部ストロボのカスタム機能で、［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、C.Fn-6-0,2を設定しても、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

C.Fn-7　ライブビュー撮影中のAF

1、2を設定すると、ライブビュー撮影中にAFを行うことができるようになります。詳しくは、102〜106ページを参照してください。

0：しない

1：クイックモード（p.102）

2：ライブモード（p.104）

C.Fn-8　ミラーアップ撮影

0：しない

1：する

望遠レンズを使用した撮影や、近接（マクロ）撮影で、ミラーの作動によるカメラブレを防止することができます。ミラーアップ撮影については、94ページを参照してください。

C.Fn IV：操作・その他

C.Fn-9　シャッターボタン/AEロックボタン

0：AF/AEロック

1：AEロック/AF

　ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈✱〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出を固定）することができます。

2：AF/AFロック（AEロックなし）

　AIサーボAF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないよう、〈✱〉ボタンでAFの作動を一時停止することができます。露出は撮影の瞬間に決まります。

3：AE/AF（AEロックなし）

　移動／停止を繰り返す被写体の撮影などに有効です。AIサーボAFを設定しておくと、〈✱〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にして、シャッターチャンスを待つことができます。

C.Fn-10　撮影時のSETボタン

　よく使う機能を、〈SET〉に割り当てることができます。撮影準備状態で〈SET〉を押します。

0：液晶モニターの入/切

〈DISP.〉ボタンと同じになります。

1：記録画質選択

〈SET〉を押したあと、液晶モニターを見ながら、記録画質を〈✣〉十字キーで直接設定することができるようになります。

2：調光補正

〈SET〉を押すと、調光補正の設定画面が表示され、迅速に設定の変更を行うことができます。

3：メニュー表示

〈MENU〉ボタンと同じになります。

4：無効

1～4に設定しても、メニュー［**ライブビュー撮影**］が［**する**］に設定されているときは、ライブビュー撮影が優先されます。撮影準備状態で〈SET〉を押すと、ライブビュー映像が表示されます。

C.Fn-11　電源スイッチ〈ON〉時の液晶点灯

0：点灯

電源を入れると撮影機能の設定状態（p.42）が表示されます。

1：電源〈OFF〉時の状態を保持

〈DISP.〉ボタンを押して、液晶モニターが消えている状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに撮影機能の設定状態が表示されません。電池の消耗を少なくしたいときに有効です。なお、メニュー操作や再生操作は、通常どおり行うことができます。

〈DISP.〉ボタンを押して、液晶モニターに画面が表示されている状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに撮影機能の設定状態が表示されます。

C.Fn-12　オリジナル画像判定用データの付加

0：しない

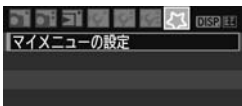
1：する

撮影画像に、その画像がオリジナルであるか否かを判定するためのデータが自動的に付加されます。判定用データが付加された画像を撮影情報表示（p.131）で再生すると、〈🔒〉が表示されます。

オリジナル画像の判定には、オリジナルデータセキュリティキットOSK-E3（別売）が必要です。

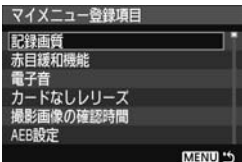
オリジナルデータセキュリティキットOSK-E3の画像暗号化・復号機能には、対応していません。

MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、6項目まで登録することができます。

1 [マイメニューの設定] を選ぶ

- [★] タブの [**マイメニューの設定**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [登録] を選ぶ

- [**登録**] を選び〈SET〉を押します。

3 登録する

- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選び、〈SET〉を押すと登録されます。
- 操作を繰り返して6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順2の画面に戻ります。

マイメニューの設定について

手順2で表示される [**並べ替え**] などの内容は、以下のようになっています。

- **並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。[**並べ替え**] を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。[◆] が表示された状態で〈▲▼〉を押して並び順を変え、〈SET〉を押します。

- **マイメニューから表示**

  [**する**] に設定すると、メニュー画面を表示したときに [★] タブから表示されます。

- **削除、全項目削除**

  登録した項目を削除することができます。[**削除**] を選ぶと1項目ずつ削除、[**全項目削除**] を選ぶと登録内容がすべて削除されます。

10

資料

撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。また、章の最後には索引を設け、知りたいことが見つけやすいようになっています。

AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
（例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
（例：反射光の強い車のボディ）
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合（例：おりの中の動物）
- 繰り返し模様の被写体
（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）

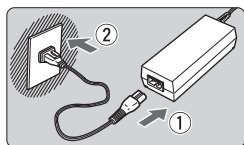
これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。（p.46）

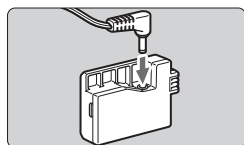
（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う。

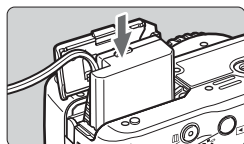
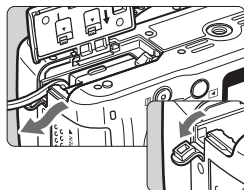
- エクステンダー（別売）を併用したときに、開放絞り数値がF5.6よりも大きいレンズでは、AF撮影できません（「ライブモード」のAFを除く）。詳しくは、エクステンダーの使用説明書を参照してください。
- 「ライブモード」のAFでピントが合いにくい撮影条件は、106ページを参照してください。

家庭用電源を使用する

ACアダプターキットACK-E5（別売）を使うと、家庭用電源を使用して電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 電源コードを接続する

- 電源コードを図のように差し込みます。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

2 DCカプラーDR-E5を接続する

- DC カプラー DR-E5 にコードのプラグを差し込みます。

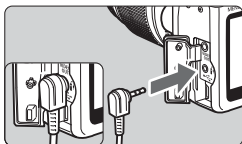
3 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DCカプラーをロック位置までしっかりと入れます。

4 DCコードを通す

- DC コード通し部のカバーを開き、図のようにコードを通します。
- ふたを閉じます。

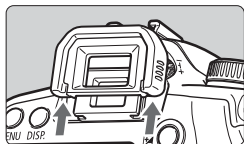
カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたまま、電源コードの抜き差しを行わないでください。

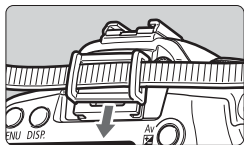
リモートスイッチを使った撮影

リモートスイッチRS-60E3（別売）

シャッターボタンの半押し／全押し機能を備えたコード長60cmのリモートスイッチです。カメラのリモコン端子につなぐだけで使用できます。

リモートコントローラー RC-1、RC-5（別売）は使用できません。

アイピースカバーを併用する

ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー（p.22）を使います。

1 アイカップを取り外す

● アイカップの下側を押して取り外します。

2 アイピースカバーを取り付ける

● ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。

外部ストロボの使用について

EOS用EXシリーズスピードライト

基本操作は内蔵ストロボ撮影同様、簡単です。

EXシリーズスピードライトをこのカメラに装着したとき、ストロボ撮影の自動調光制御のほぼすべては、このカメラによって行われます。つまり、「内蔵ストロボの代わりに大光量ストロボが外付けされたもの」とお考えください。

操作方法については、EXシリーズスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXシリーズスピードライトの全機能が使用できるAタイプカメラに属しています。

クリップオンタイプストロボ

マクロストロボ

ストロボ機能設定（p.117）に対応していないEXスピードライト使用時は、［**ストロボ機能設定**］の内、［**調光補正**］［**E-TTL II**］の項目のみ設定できます。（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）

EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

- **EZ/E/EG/ML/TL スピードライトを、TTL またはA-TTL 自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**カメラの撮影モードを〈**M**〉（マニュアル露出）、または〈**Av**〉（絞り優先AE）に設定し、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を持つスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。
- EX スピードライト使用時に、ストロボのカスタム機能で、調光方式をTTL 自動調光にしているときも、常時フル発光します。

汎用ストロボを使った撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/200秒以下のシャッター速度で同調します。あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから使用してください。

ライブビュー撮影時の注意

汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うと、ストロボが発光しません。

- 他社製の特定のカメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因となります。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

メニュー機能一覧

撮影1（赤）

		参照頁
記録画質	◢L／◢L／◢M／◢M／◢S／◢S／RAW+◢L／RAW	64
赤目緩和機能	切／入	59
電子音	入／切	108
カードなしレリーズ	する／しない	108
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	108

撮影2（赤）

AEB設定	1/3段ステップ、±2段	80
調光補正	1/3段ステップ、±2段	79
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	90
WB補正/BKT設定	WB補正：ホワイトバランス補正 WB-BKT：ホワイトバランスブラケティング	92 93
色空間	sRGB／Adobe RGB	87
ピクチャースタイル	スタンダード／ポートレート／風景／ ニュートラル／忠実設定／モノクロ／ ユーザー設定1～3	67 82 85
ダストデリートデータ取得	ゴミ消し処理するためのデータを取得	119

再生（青）

画像プロテクト	画像の保護	129
画像回転	画像の縦横回転	126
画像消去	画像の消去	130
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	143
送信指定	パソコンに送信する画像を指定	149
ヒストグラム	輝度／RGB	132
オートプレイ	撮影画像の自動再生	127

- ［撮影2］、［機能設定3］、［マイメニュー］の画面（タブ）は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。
- □の項目は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。
- かんたん撮影ゾーンでは、記録画質RAW、RAW+◢Lは表示されません。

機能設定1（黄）

		参照頁
オートパワーオフ	30秒／1分／2分／4分／8分／15分／切	109
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	110
縦位置画像回転表示	する／する／しない	112
カード初期化	記録内容を初期化して消去	40
液晶の消灯/点灯	半押し連動／半押し/DISP.／消灯しない	115
撮影機能画面の色	背景の色を選択	115

機能設定2（黄）

液晶の明るさ	7段階明るさ調整	109
日付/時刻	日付（年/月/日）/時刻（時/分/秒）の設定	29
言語	表示言語を選択	30
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	128
センサークリーニング	自動クリーニング／今すぐクリーニング	118
	手作業でクリーニング	121
ライブビュー機能設定	ライブビュー撮影／グリッド／測光タイマー	96
ストロボ制御	ストロボの発光／内蔵ストロボ機能設定／外部ストロボ機能設定／外部ストロボカスタム機能設定／外部ストロボカスタム機能一括解除	116

機能設定3（黄）

カスタム機能（C.Fn）	カメラの機能を細かく設定する	152
設定解除	カメラ設定初期化／カスタム機能（C.Fn）一括解除	114
ファームウェア	ファームウェア変更時に選択	－

マイメニュー（緑）

マイメニューの設定	よく使うメニュー機能やカスタム機能を登録	160

撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン							応用撮影ゾーン				
		□							P	Tv	Av	M	A-DEP
記録画質	JPEG	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	RAW								○	○	○	○	○
	RAW+◢L								○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	手動設定								○	○	○	○	○
ピクチャースタイル	スタンダード	●			●	●	●	●	○	○	○	○	○
	ポートレート		●						○	○	○	○	○
	風景			●					○	○	○	○	○
	ニュートラル								○	○	○	○	○
	忠実設定								○	○	○	○	○
	モノクロ								○	○	○	○	○
	ユーザー設定								○	○	○	○	○
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	Adobe RGB								○	○	○	○	○
ホワイトバランス	オートWB	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	プリセットWB								○	○	○	○	○
	マニュアルWB								○	○	○	○	○
	WB補正								○	○	○	○	○
	WBブラケティング								○	○	○	○	○
オートライティングオプティマイザ		●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
AF	ワンショット		●	●	●		●		○	○	○	○	●
	AIサーボ					●			○	○	○	○	
	AIフォーカス	●						●	○	○	○	○	
	AFフレーム選択 自動	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●
	AFフレーム選択 任意								○	○	○	○	
	AF補助光	●	●		●		●		○	○	○	○	○

●：自動設定　○：選択可能　▭：選択不可

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン							応用撮影ゾーン				
									P	Tv	Av	M	A-DEP
測光方式	評価測光	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	部分測光								○	○	○	○	○
	中央部重点平均測光								○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト								○				
	露出補正								○	○	○		○
	AEB								○	○	○	○	○
	AEロック								○	○	○		○
	被写界深度確認								○	○	○	○	○
ドライブ	1枚撮影	●		●	●		●	●	○	○	○	○	○
	連続撮影		●			●			○	○	○	○	○
	セルフタイマー10秒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	セルフタイマー2秒								○	○	○	○	○
	セルフタイマー後連続撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内蔵ストロボ	自動発光	●	●		●		●						
	手動発光								○	○	○	○	○
	発光禁止			●		●		●					
	赤目緩和	○	○		○		○		○	○	○	○	○
	FEロック								○	○	○	○	○
	ストロボ調光補正								○	○	○	○	○
ライブビュー撮影									○	○	○	○	○

故障かな？と考える前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください。（p.26）
- 電池を充電してください。（p.24）
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください。（p.26）
- カードスロットカバーが閉まっているか確認してください。（p.31）
- 〈DISP.〉ボタンを押してください。（p.42）

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、数秒間はアクセスランプが点灯／点滅します。カードへの画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください。（p.24）
- 何度も繰り返し使用した電池で消耗が早いときは、新しい電池をお買い求めください。

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、メニュー［**ƒ オートパワーオフ**］を［**切**］にしてください。
- ［**ƒ オートパワーオフ**］を［**切**］に設定していても、カメラを30分放置すると、液晶モニターが消灯して電源が切れたように見えます。〈DISP.〉ボタンを押すと液晶モニターが点灯します。

撮影

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください。（p.31）
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください。（p.31、130）
- ワンショット AF でピント合わせしたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください。（p.37、62）
- カードのライトプロテクトスイッチを、書き込み・消去可能な設定にしてください。（p.31）

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターにゴミやほこりが付いているときは、眼鏡ふきや、柔らかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください。（p.33）
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください。（p.36、37）

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、40 ページ、または175ページを参照してください。

カメラを振ると音がする

- 内蔵ストロボを上げるための機構がわずかに動くためで、故障ではありません。

内蔵ストロボが発光しない

- 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

画像の確認・操作

画像を消去できない

- 画像にプロテクトがかかっていると消去できません。（p.129）

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

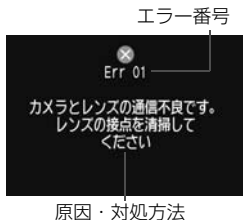
- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。（p.29）

テレビに画像が表示されない

- ビデオケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。（p.128）
- ビデオ出力方式（NTSC/PAL）をテレビと同じ方式に設定してください。（p.169）
- カメラに付属のビデオケーブルを使用してください。（p.128）

エラー表示

エラー番号

原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

エラー状態から復帰させるときは、電源スイッチの〈OFF〉→〈ON〉、または電池の出し入れを行ってください。

エラー 02（カードのトラブル）が表示されたときは、カードの抜き差し、または初期化で正常に戻ることがあります。

頻繁にエラー画面が表示されるときは故障ですので、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

撮影直後にエラー画面が表示されたときは、撮影されていない場合があります。エラー状態から復帰させたあと、〈▶〉ボタンを押して画像を確認してください。

システム図

アイピースエクステンダー
EP-EX15II
ラバーフレームEf
視度補正レンズE
アイカップEf
アングルファインダーC
ST-E2
220EX
430EX II
580EX II
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
主な付属品
ワイドストラップ
EW-100DB III
セミハードケース
EH19-L
バッテリーパック
LP-E5
バッテリーグリップ
BG-E5
バッテリーチャージャー
LC-E5
カーバッテリー
チャージャー
CBC-E5
ACアダプターキット
ACK-E5
DCカプラー
DR-E5
コンパクト
パワーアダプター
CA-PS700
LP-E5用
バッテリーマガジン
BGM-E5L
単3形電池用
バッテリーマガジン
BGM-E5A

EFレンズ
EF-Sレンズ
リモートスイッチ
RS-60E3
ビデオケーブル
VC-100
テレビ／ビデオ
EOS DIGITAL
Solution Disk
ソフトウェア
使用説明書
PictBridge対応プリンター
インターフェースケーブル
IFC-200U
インターフェースケーブル IFC-500U
パソコン
USBポート
Windows Vista
Windows XP
Windows 2000
Mac OS X
オリジナルデータ
セキュリティキット
OSK-E3
カードリーダー
PCカードスロット
SDメモリーカード／
SDHCメモリーカード
PCカードアダプター

主な仕様

■型式

型式.................................... ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体............................ SDメモリーカード、SDHCメモリーカード
撮像画面サイズ................. 22.2×14.8mm
使用レンズ........................ キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを含む）
（有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当）
レンズマウント................. キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式.................................... 高感度・高解像度大型単板CMOSセンサー
画素数................................ カメラ部有効画素：約1010万画素
総画素：約1050万画素
アスペクト比..................... 3：2
カラーフィルター方式...... RGB原色フィルター
ローパスフィルター.......... 固定式、撮像素子前面に配置
ダスト除去機能................. （1）自動センサークリーニング
（2）手動センサークリーニング
（3）撮影画像へのダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット............. DCF2.0
画像タイプ........................ JPEG、RAW（12bit、キヤノン独自）
RAW+JPEG同時記録..... 可能
ファイルサイズ................. （1）ラージ／ファイン　：約3.8MB（3888×2592画素）
（2）ラージ／ノーマル　：約2.0MB（3888×2592画素）
（3）ミドル／ファイン　：約2.3MB（2816×1880画素）
（4）ミドル／ノーマル　：約1.2MB（2816×1880画素）
（5）スモール／ファイン：約1.3MB（1936×1288画素）
（6）スモール／ノーマル：約0.7MB（1936×1288画素）
（7）RAW（ロウ）　　　：約9.8MB（3888×2592画素）
* ファイルサイズは、被写体条件、ISO 感度、ピクチャースタイルなどにより異なる
画像番号............................ 通し番号、オートリセット、強制リセット

■画像処理

色空間................................ sRGB、Adobe RGB
ピクチャースタイル.......... スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
ホワイトバランス............. オート、太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ、マニュアル

色温度補正.........................ホワイトバランス補正：1段ステップ±9段
ホワイトバランスブラケティング：1段ステップ±3段
* ブルー／アンバー方向、マゼンタ／グリーン方向に補正可能
色温度情報通信.................対応
ノイズ低減.........................長秒時露光のノイズ低減
高感度撮影時のノイズ低減
画像の明るさ自動補正......オートライティングオプティマイザによる
オリジナル画像判定用
データの付加.....................可能（オリジナルデータセキュリティキットOSK-E3により判定）

■ファインダー

方式....................................ペンタダハミラー使用、アイレベル式
視野率...............................上下左右とも約95%
倍率...................................約0.81倍（50mmレンズ・∞・－1m^{-1}）
アイポイント.....................約21mm（接眼レンズ中心から）
視度調整範囲.....................－3.0～＋1.0m^{-1}（dpt）
フォーカシング
スクリーン.........................固定式、プレシジョンマット
ミラー...............................クイックリターン式全面ハーフミラー（透過：反射=40：60、ミラー切れ：EF600mm F4L IS USMまでなし）
ファインダー情報.............AF情報（AFフレーム、合焦マーク）、露出情報（シャッター速度、絞り数値、AEロック、露出レベル表示、ISO感度、露出警告）、ストロボ情報（充電完了、ハイスピードシンクロ、FEロック、調光補正）、モノクロ撮影、ホワイトバランス補正、連続撮影可能枚数、メモリーカード情報
被写界深度確認.................絞り込みボタンによる

■オートフォーカス

方式....................................TTL二次結像位相差検出方式
測距点...............................7点測距
輝度範囲...........................EV 0.5～18（常温・ISO100）
フォーカスモード.............ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
AFフレーム選択...............自動選択、任意選択
AFフレーム選択表示........ファインダー内スーパーインポーズと液晶モニターによる
AF補助光..........................内蔵ストロボ間欠発光方式
有効距離：中央部約4m／周辺部約3.5m

■露出制御

測光方式............................35分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約10%）
・中央部重点平均測光
測光範囲............................EV1～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御方式.....................プログラムAE（全自動、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、ストロボ発光禁止、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先AE、自動深度優先AE、マニュアル露出、E-TTL II 自動調光
ISO感度............................かんたん撮影ゾーン：ISO 100～800自動設定
（推奨露光指数） 応用撮影ゾーン：ISO 100～1600任意設定（1段ステップ）、自動設定
露出補正............................手動：1/3、1/2段ステップ±2段（AEB併用可能）
AEB ：1/3、1/2段ステップ±2段
AEロック...........................自動：評価測光のワンショットAF合焦時
手動：AEロックボタン押しによる

■シャッター

形式....................................電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度.................1/4000～1/60秒、X=1/200秒
1/4000～30秒・バルブ（すべての撮影モードを合わせて）
レリーズ方式.....................ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー.................10秒後/2秒後/10秒後連続撮影

■内蔵ストロボ

形式....................................リトラクタブル式、オートポップアップストロボ
調光方式............................E-TTL II 自動調光
ガイドナンバー.................13（ISO 100・m）
充電時間............................約3秒
充電完了表示.....................ファインダー内ストロボ充電完了マーク点灯
照射角................................焦点距離17mm相当の画角に対応
ストロボ調光補正.............1/3、1/2段ステップ±2段
FEロック...........................可能

■外部ストロボ
対応ストロボ ....EXシリーズスピードライト
調光方式............................E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正.............1/3、1/2段ステップ±2段
FEロック...........................可能
外部ストロボ設定機能......ストロボ機能設定、ストロボカスタム機能設定可能
画面サイズ対応ズーム......対応

■ドライブ関係
ドライブモード.................1枚撮影、連続撮影、セルフタイマー（10秒、2秒、連写）
連続撮影速度 ....JPEG　　：最高約3コマ/秒
RAW　　：最高約1.5コマ/秒
RAW+◢L：最高約1.5コマ/秒
連続撮影可能枚数.............JPEG（ラージ／ファイン）：約514枚、RAW：約5枚、RAW+JPEG（ラージ／ファイン）：約4枚
* 当社試験基準2GB SDメモリーカード使用時、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時
* 被写体やメモリーカードの銘柄、記録画質などの設定により異なる

■ライブビュー機能
撮影方式............................（1）ライブビュー撮影
（2）リモートライブビュー撮影
（EOS Utilityがインストールされたパソコン接続時）
フォーカス ....手動ピント合わせ
オートフォーカス（クイックモード、ライブモード）
測光方式............................撮像素子による評価測光
測光範囲............................EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
グリッド表示 ....可能
露出表示............................常時露出シミュレーション

■液晶モニター
形式....................................TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ 2.5型
ドット数............................約23万ドット
視野率................................約100%
輝度調整............................7段階に調整可能
表示言語............................20言語

■再生機能

画像表示形式……………………1枚、1枚+記録画質、撮影情報、ヒストグラム、4枚/9枚インデックス、拡大ズーム（約1.5～10倍）、画像回転、ジャンプ（1枚/10枚/100枚/撮影日）

ハイライト表示……………可能（ハイライト部分を点滅表示）

■記録画像のプロテクト／消去

プロテクト……………………1枚単位でプロテクト、解除

消去……………………………1枚／チェックマーク付き画像／カード内全画像の単位で消去（プロテクト画像を除く）

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター……………PictBridge対応プリンター

印刷対応画像………………DCFに準拠したJPEG画像（DPOF指定画像の印刷も可能）

簡単印刷機能………………あり

■印刷指定機能

DPOF ………………………バージョン1.1準拠

■ダイレクト画像転送機能

転送対応画像………………JPEG画像、RAW画像
* パソコン画面の背景として転送する場合はJPEG画像のみ

■カスタマイズ機能

カスタム機能………………全12種

マイメニュー登録…………可能

■インターフェース

USB端子……………………パソコン通信／ダイレクトプリント用（Hi-Speed USB）

ビデオ出力端子……………NTSC／PAL選択可能

リモコン端子………………リモートスイッチRS-60E3対応

■電源

使用電池………………………バッテリーパックLP-E5、1個使用
* ACアダプターキットACK-E5使用により、AC駆動可能
* バッテリーグリップBG-E5装着時、単3形電池使用可能

撮影可能枚数 .... [約・枚]

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（＋23℃）	600	500
低温（0℃）	500	400

* フル充電のバッテリーパックLP-E5使用時
* CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準による

電池チェック ....自動
節電機能 ....あり、設定時間（30秒/1/2/4/8/15分）経過で電源切
日付/時計機能用電池 ....内蔵型二次電池
起動時間 ....約0.1秒（CIPAの試験基準による）

■大きさ・質量

大きさ ....126.1（幅）×97.5（高さ）×61.9（奥行）mm
質量....................................約450g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度 ....0℃～＋40℃
使用可能湿度 85%以下

■バッテリーパックLP-E5

形式....................................充電式リチウムイオン電池
公称電圧 DC7.4V
容量....................................1080mAh
大きさ ....36（幅）×14.7（高さ）×53.1（奥行）mm
質量....................................約50g（保護カバーを除く）

■バッテリーチャージャー LC-E5

充電可能電池 バッテリーパックLP-E5
充電時間 約2時間
定格入力 ....AC100～240V（50/60Hz）
定格出力 DC8.4V/700mA
使用可能温度 ....0℃～＋40℃
使用可能湿度 85%以下
大きさ ....67（幅）×26（高さ）×87.5（奥行）mm
質量....................................約80g

■EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS

画角………………………… 対角線：74°20′～27°50′
水平：64°30′～23°20′
垂直：45°30′～15°40′
構成枚数…………………… 9群11枚
最小絞り…………………… F22－36
最短撮影距離……………… 0.25m（撮像面から）
最大撮影倍率……………… 0.34倍（55mm時）
画界………………………… 207×134mm～67×45mm（0.25m時）
手ブレ補正機能…………… レンズシフト式
フィルター径……………… 58mm
最大径×長さ……………… 68.5×70mm
質量………………………… 約200g
対応フード………………… EW-60C
対応ケース………………… LP814

■EF-S18-55mm F3.5-5.6 II

画角………………………… 対角線：74°20′～27°50′
水平：64°30′～23°20′
垂直：45°30′～15°40′
構成枚数…………………… 9群11枚
最小絞り…………………… F22－36
最短撮影距離……………… 0.28m（撮像面から）
最大撮影倍率……………… 0.28倍（55mm時）
画界………………………… 248×161mm～81×54mm（0.28m時）
フィルター径……………… 58mm
最大径×長さ……………… 68.5×66mm
質量………………………… 約190g
対応フード………………… EW-60C
対応ケース………………… LP814

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様、および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
- Macintosh、およびMac OSは、米国および他の国で登録された、米国アップル社の商標、または登録商標です。
- SDHCロゴは商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

＊ このデジタルカメラは、DCF 2.0とExif 2.21（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいな印刷出力結果を得ることができます。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と、期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理受付窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

索 引

英数字

あ

か

た

な

は

ま

や

ら

わ

Canon

キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00〜20：00
土・日・祝日 10：00〜17：00
（1月1日〜1月3日は休ませていただきます）

※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。
※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2008年5月に作成したものです。それ以降に発売されたアクセサリー、レンズとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CT1 - 5236 - 000 PRINTED IN JAPAN
0000Ni0.0